

---

# News Letter

No.16 2006年6月

---

日本環境工学教授協会  
Japan Association of Environmental Engineering Professors

---

## 目 次

顧問寄稿：自然環境変化の背後で進む 社会環境破壊と文化環境破壊	1
委員会活動状況の紹介	
土木学会環境システム委員会	5
土木学会地球環境委員会	7
大学・高専ニュース	12
(1)教育研究組織の改組、計画など	
(2)人事	
(3)シンポジウム・講演会など	
(4)国際交流関係の事業など取り組み	
(5)教育・研究上の特別な催し、計画など	
(6)その他のニュース	
会員ニュース	18
[特集]博士論文・修士論文・卒業研究等テーマ	19
事務局からのお知らせ：	36

---

## 自然環境変化の背後で進む社会環境破壊と文化環境汚染

日本環境工学教授協会 顧問 寺島 泰

(大阪産業大学新産業研究開発センター長、人間環境学部客員教授)

はじめに

私の現在の職場、大阪産業大学人間環境学部ですが、ここで言う人間環境は、人間と環境ではなく、人間と相互に作用する人間存在のための外圍の環境を意味し、その要素を生存基盤としての自然環境、集住生活の基盤である社会環境、人間性の基盤としての文化環境などと捉えています。この観点からすれば、現在我々が直面している多くの問題、\*地域環境問題の多様化と地球規模環境問題の深刻化、\*都市の巨大化・複雑化と機能障害、災害・環境安全性の低下、\*社会格差の拡大と人間関係の希薄化、社会秩序・心理の悪化・不安定化、\*経済システムの複雑化・投機化・不安定化、\*先進社会と途上社会の格差拡大、\*資源南北問題、\*人口急増、\*民族・宗教対立とテロの多発なども、現代の人間環境の問題、即ち相互に関連する自然環境、社会環境、文化環境の問題などとして理解することになります。

社会環境破壊と文化環境汚染

人類が創造・発展させた社会と文化の恩恵は全て認めたくて、環境工学分野の者が社会環境破壊、文化環境汚染などと奇異な表現を敢えて試みる意図は、以下のような思いを強調することにあります。つまり、上記のような理解に基づくとして、人間環境に係る主要な問題の一つである自然環境(いわゆる環境)問題への取り組みを見ますと、当然のこ

ととして、原因としての社会環境の要素(都市・産業、社会・経済、技術・制度・政策など)の改善に重点が置かれ、自然環境への負荷の制御から持続可能な循環型社会の形成推進に至るまで、種々の対策が実施されて来ました。しかし、今日の状況を見ますと、議定書目標主唱国にも拘らず排出削減どころか排出増加が止まらない(特に家庭・運輸部門)温暖化原因物質、長年にわたって一向に困難性が低減されない廃棄物処理問題、慢性化の感すら増大する窒素酸化物問題、その他、いまだに大量生産・大量消費・大量廃棄型社会体質から脱しきれないわが国の姿が浮かび上がります。

そしてこうした状況は、社会環境の改善による自然環境問題へのこれまでの取り組みが、さらに言えば多様化し深刻化する社会環境問題への取り組みも、取り組みそのものの限界あるいは取り組み・効果関係の限界に近づいている、あるいは直面しているためなのでしょう。そして、その主な原因は現代社会環境の属性(自由主義、大衆社会、資本主義、市場経済、他)の疲労、弱点、欠点などによるのでしょうが、他の重要な原因が、人間の欲望と理性、人間行動の価値体系や道徳意識などの形成を支配する文化環境に在るにも拘らず、ここへ遡っての取り組みがほぼ無策である、さらに一般的に言えば、社会・文化・自然環境の間の相互作用が複雑化する中で、総合的・体系的な取り組みが不可欠であるにも

拘らず、実質的になされていないためではないかと思うのです。

社会環境の発展・複雑化とともに多様化を続ける文化環境、両者には多くの問題が顕在化しています。とくに今日の大衆社会(mass society)への発展、ともに多様化・拡大を続けてきた大衆文化(mass culture)、それらの中では、自然環境汚染とともに社会環境破壊、文化環境汚染などと強調せねばならぬような問題と原因が急速に増大しているよう思いません。これらはガンのような病根として育ち、人間の叡智の混迷や社会の機能不全を招きつつあるのではないか、大衆社会が始まる 19 世紀末以来の、O.シュペングラー(西欧の没落)、J.オルテガ(大衆の反逆)から先般逝去の J. ガルブレイス(不確実性の時代)、その他多くの識者の指摘を改めて痛感するのです。

くどくなりますが、文化環境汚染は人間の精神の汚染に繋がる重要な問題であるにも拘らず、文化環境の点検・評価・改善などということは、不可能あるいはタブー視されているようにさえ思えます。個人の自由と権利、言論と表現の自由などが拡大し、テレビ・雑誌などマスメディアの支配力が強化するなかで、影響が増大する一方で対策の困難性も増大しています。「人間は自由の刑に処せられている(サルトル)のでしょう。だからこそ、人文科学分野は総力をもって取り組みを先導して欲しい、我々もこのことを声を大きく発言せねば、また文化環境にまで広げた視野で自然環境問題に取り組みねば、こんな気持ちを強調したのが文化環境汚染という表現です。勿論、社会環境破壊という強い認識とそれに基づくさらなる取り組みの重要性は言うまでもありません。

自然との共生とそのための資源循環を基盤

とした社会「共生循環型社会(環境調和・資源循環型社会)」の形成推進を強調したのは、環境基本法による環境基本計画の提示以前でした。その後、資源など物質的価値のみならず、経験・知識、いたわり・暖かさなど精神的価値を老若・家族・地域などの間に還流させて人々の共生を図る社会を含めたものが広義の共生循環型社会であり、こちらを政策として形成を推進すべきであると強調していますが、さて何をどうと言う案がまとまっているわけではありません。が、文化環境整備の重要性を語呂合わせで強調しているつもりなのです。また、かつて環境工学分野の一人として、対策の基本としての文明の変革という視点から、要素としての価値観とライフスタイルを重要視しつつ、社会経済システム、制度、科学技術などの改善・改変の課題に触れたことがあります(21 世紀の環境工学:土木学会論文集 V -10,1999 年)、昨年末には人間環境学分野の一員として、自然環境問題の起源という観点から、社会環境、文化環境の問題を概観し、話題として提供する機会を得ました。そこで以下には、上記のような思いを持って、その折のメモを駄文紙面縮小の努力も加えて追記した次第です。多くは流布説の集約ですが、ご関心が向けばご批判を下さい。

#### 人間環境問題要約

#### 1. 自然環境問題(地域・地球環境問題)の社会的・文化的背景

\* 環境問題招来の原因: 民主主義・資本主義・産業技術・マス・メディアとこれらに基づく大衆社会・大衆文化の発展: 科学技術の発展、大量生産システムの形成と地球規模の資源利用、物質的豊かさを求める価値観や消

費文化の喚起・増大などによる大量生産・大量消費・大量廃棄型社会の形成、同社会の受け皿としての都市の成長・肥大化、工業化による2次産業の増大と、農林魚村の疲弊などが原因となった地域物質循環系の破壊、自然との共生の減少、自然についての見方：西欧社会における神・人間・自然の階層化、科学哲学における自然の道具・機械視と人間との差別化、わが国においては伝統的「共生・循環」思想の軽視、生きる、働くなどの目的の混迷、欲望の増大。

## 2. 社会環境問題

### 1) 都市問題の多様化

\* 都市の無計画的成長・肥大化、集中・高密度化、老朽化などによる都市機能不全（交通・ライフライン・都市衛生問題）の発生、快適性・景観の喪失、\* 再開発など機能改善・土地有効利用の困難性、\* 災害に対する安全性の低下、\* 都市の自然環境（生活環境）の悪化、\* 高齢化都市の出現、\* 農林魚村における過疎、労働力の高齢化と疲弊、\* 都市と農村・自然との共生、循環機能の喪失と地域物質循環系の喪失。

### 2) 社会問題の増加・多様化

\* 社会・経済は、個人や社会の価値観、制度、工業技術、電子・情報技術、国際化・グローバル化などと相互に影響しつつ巨大化、複雑化、不安定要因と問題を顕在化、\* 大衆社会（mass society）の誕生と広がり：個性の喪失、生活様式の画一化、社会への帰属感の喪失、政治的無関心の増大、文化の質の低下などの招来（大衆社会の危険性：J.オルテガ・yG など）、\* 大衆社会の巨大化・複雑化：さらなる工業技術とマルチメディアなどの発展と多様化に支えられた現代大衆社会への移

行は、さらに社会の構造と機能を高度かつ複雑にするとともに、大衆の欲望を多様に喚起し、社会と経済に物質的価値優先と消費中心の価値観とライフスタイルを生み、消費社会を形成した、\* 価値観や欲望とその充足手段の多様化などに伴う、倫理・道徳の希薄化、犯罪の増加や凶悪化・低年齢化など社会秩序の悪化、\* 家庭や社会における人間関係の希薄化、\* 離婚・母子家庭・不登校児・ニートの急増、アパシー（無気力症）の増加・低年齢化など社会心理の不安定化、\* 社会・企業の活動における競争・敵対的要因の増加、\* 非婚化、出生率低下、\* 人口構成・労働力問題、\* 急上昇する人口の扶養負担度、その他の社会問題。

### 3) 情報技術革命やグローバル化の進展と複雑化に伴う問題

\* インターネット犯罪、金融・通信システム犯罪の増加、\* 資本主義の根幹をゆるがす投機的経済の拡大：インターネット経済、不在資本家（J.A.シュンペーター）増加傾向、保険・年金等の莫大な資金の存在、\* 経済のグローバル化・電子情報化に伴う経済システムの複雑化・投機化・不安定化、国家社会の経済独自性の破壊、\* 経済システムの制御困難性の増大。

### 4) 現代社会経済制度（自由主義、民主主義と資本主義）の問題

\* 資本主義制度の根幹における問題：市場経済における個人利潤追求の自然調和（アダム・スミス：国富論）は本質的に合理的かつ可能か？ \* 資本主義制度の成立条件の変質：プロテスタンティズムの倫理（M. ウェーバー）の喪失、家族動機の喪失（J.A. シュンペーター）、\* 不在資本家の増加、\* 批判の対極・共産主義制度の失敗、\* 結果と

して現代の資本主義経済は、多様な利便の供給かつ多様な欲望の喚起と充足のための生産・消費の制度として巨大化・複雑化し、欠点を露呈、\*大量生産・消費による常なる成長を目的とし、経済成長が無ければ社会不安と失業等の不安定性が発生する社会経済構造、\*企業の順法、企業倫理の問題、\*現代大衆社会における自由の拡大と公共の福祉に対する責任・制約の希薄化：自由や権利は乱用してはならず、常に公共の福祉のために利用する責任を負う（憲法）、\*社会経済制度とその発展の目的、目標(goal)の不透明化。

#### 5) 国際社会の問題

\*先進社会と途上社会の格差拡大、資源南北問題、人口急増、民族・宗教対立とテロの多発、他。

### 3. 文化環境問題

#### 1) 大衆文化の人間・社会への影響

\*有害文化要素による文化環境汚染は？：マスメディアによって多数の人々（大衆）に享受される文化として多様な内容を持つに至った大衆文化は、人間・社会の価値観、倫理・道徳など秩序の基本、また生活様式、伝統その他の既存の文化に影響(相互的)する、\*アメリカ大衆文化の成長と問題：19世紀末から20世紀初期のアメリカの文化産業と大衆文化が、イギリス市民階級の民衆文化を破壊し、汚染（ホルクハイマー/アドルノ）、\*大衆社会論における大衆文化の批判：都市の大衆の登場とその世俗的な趣味、下位文化による高級文化の破壊の危険性（文化の質の低下：オルテガ）、\*大衆文化成立へのモダニズムの影響、\*戦後の現代大衆社会における大衆文化の問題：その媒体をテレビ、

ビデオ、CD、パソコン、インターネット、ゲームマシン、その他などと広げ、内容を映像・音・バーチャル空間などでますます多様化し、個人や社会の価値観、倫理・道徳、伝統他の既存の文化への影響力を強化、\*一方において、ポスト・モダンの思潮、\*戦後のアメリカ大衆文化の影響（豊か、大きい、新しい、便利、快適、豪華、賑やか、使い捨てなどの感性）

#### 2) 電子情報化・マルチメディア化などの影響

\*娯楽情報などサブカルチャーの多様化と大量流通、\*インターネット、携帯電話などの高機能化（大量情報、双方向通信）と倫理問題、表現の自由の問題、\*視覚文化、バーチャル（仮想）世界の多様化と拡大。

#### 3) 消費文化の影響

\*戦後の工業技術と経済システムの多様な発展、マスメディアと商業広告、マルチメディアなどの進歩に支えられた現代大衆社会の発展による、大量生産・大量消費を目的とする消費社会の形成、\*社会と経済における物質的価値優先と消費中心主義の流れの誕生（ガルブレイス：消費者の見栄張り競争と共に、宣伝と生産は消費者の欲求を創造）、\*成長マインドの成長と浸透。

#### 4) 現代大衆社会における表現の自由の問題

\*言論、出版、他の表現の自由は、憲法はどこまで保障し、社会はどこまで許容するのか？

#### 5) 国際化・グローバリズムの進展による文化環境問題

\*文化の画一化、独自性の喪失、\*民族・宗教対立、\*強化されるグローバルスタンダード。

## 6) 科学技術の影響

\* 社会・文化・自然環境に対する極めて大きな影響力、\* 到達目標(goal)を持たない生命科学、遺伝子技術、電子情報技術など先端技術の道徳・倫理、価値観など精神への影響、

文化・社会との相互の影響。

7) 根本問題 : 生きる、働くなど、人生の目的や幸福観など、人間にとって基本的なもの、それらを支える超越的なもの、世俗的でない動機などの不透明化、混迷。

---

## 委員会活動状況の紹介

### 土木学会環境システム委員会の最近の活動状況

土木学会環境システム委員会

委員長 花木 啓祐

土木学会環境システム委員会は、環境システムの体系化への取り組みを進めていただいた松岡委員長(2003-04年度)のあとを継いで体系化への取り組みを進めると共に、社会へのアウトリーチを打ち出そうとしております。この機会に現在進めている活動と、その背景にある考え方を述べてみたいと思います。

#### (1) 土木学会環境システム委員会の役割と顧客

環境システム学の目的は「社会との関連のもとで環境をシステムとしてとらえ、それによって環境問題の解決を目指す」ことにあります。そこで委員会が果たす役割は何でしょうか。委員会は同好会ではなく、学会の予算を使い、各委員の貴重な時間を割いて行われるものです。したがって自己満足に終わるものであってはならず、顧客満足を考えて活動が必要です。ここで、誤解を恐れず顧客を分類してみると次のようになるでしょう。重要なことはそれぞれの顧客によって判断基準は異なり、従って当然求め

るものも異なる点です。

第一は、環境システムに深く関わっている、コア顧客の方々です。そこには、環境システム分野で活動をしている研究者と実務者が含まれます。環境工学の方も広い意味では含まれるかもしれませんが、この方々のニーズは、社会の要請に応えるために自らの環境システムの知識を深めたい、実際に問題を解決したい、あるいは環境システムのアイデンティティを社会の中で強めたいというところにあります。また、他分野の人、他のステイクホルダーと交流をしたいという要望もあるでしょう。

第二は、環境システム潜在顧客とでも言うべきの方々です。広義の環境問題に従事する研究者と実務者、あるいは土木学会内の他委員会の方々、さらには他学会の方々で環境問題に関心のあるの方々です。そこにあるニーズは、実際に環境問題の研究や解決に当たっているが、うまくいかない、あるいは、さらにもう一段進めたいというものであったり、環境システムの方法が役に立つなら応用したいというものがあるで

しょう。

第三は、一般社会です。これは環境システムが成果を還元する先ともいえるでしょう。実際の環境問題の解決にむけて成果を社会に還元し、アウトリーチすることが求められています。一方、自らの行動を環境問題の解決に役立てたいが、どうすればよいのか、その指針を知りたい、あるいは自己啓発したいという方は非常に多いはずで、そのような方を発掘し、また興味本位の偏った情報ではなくバランスのとれた情報を提供することは私たちの義務であるはずで

## (2) 環境システム委員会の活動へのニーズの反映の考え方

これらの多様な顧客のニーズのすべてを環境システム委員会の一つの活動で満足させることは難しく、多面的な活動を展開することが必要ですが、それぞれの活動においては狙いを明確化すべきと考えています。これまで蓄積してきた当委員会の活動を改めて整理し、ターゲット顧客を明らかにするとともに、その顧客のニーズを満足するような方向で魅力を出すことが必要です。そのような観点から学会活動を見て、その方向性を考えてみたいと思います。

### 1) 環境システム研究論文発表会

環境システムコア顧客にとってはこの発表会は「発表して意味のあるもの」でなければいけませんし、環境システム潜在顧客にとっては「わざわざ来て意味のあるもの」でなければなりません。そのためには、インターネットで果たせない、双方向的なディスカッション、新たな発見、新たな人的交流の場を作り出していく必要があります。

### 2) 地域シンポジウム

地域という場を通じて、環境システムコア顧客と潜在顧客が一体となって問題を考え、解決の方向性を見出す場にするとともに、一般社会へのアウトリーチの場にする必要があるでし

う。テーマ設定、ターゲット設定によっていろいろな重み付けができますので、工夫のしどころです。

### 3) 環境システムシンポジウム

これは制約のないフリーハンドのシンポジウムですから、戦略的に使えます。すなわち、ターゲット顧客も自由なら構成も自由です。たとえば、環境システムの体系化のシンポジウムなどはコア顧客が持つ、アイデンティティを明らかにするというニーズに対応するとともに、潜在顧客に新たな関心を持ってもらう機会でもあります。また民間部門のコア及び潜在顧客を対象にするような行事も考えられます。

### 4) 土木学会内他委員会および他学会との交流

これまでも行事の共催をこれらの団体と行ってきましたが、これはコア顧客にとってもまた交流相手側の潜在顧客にとっても新たな展開の可能性をもたらすので積極的に進めたいと考えています。環境システム委員会としては土木学会と他学会との交流を実現する場に自らがなることに重要性を見いだしています。

### 5) 社会に対する提案

現在及び将来の社会にとって環境問題が重要なものであることは疑問の余地はありませんが、とりわけ人間と社会との関連で環境問題をとらえることの重要性が増しています。社会は持続可能な社会の形成を求めており、そのためのさまざまな計画が立案されています。環境システムに携わるものとしては、自らの研究成果を社会に役立てて行かねばなりません。

## (3) 体系化・アウトリーチ小委員会の設置

以上のような問題認識と方針に基づき、環境システムの体系化を進めると共にアウトリーチを企画し、進めるために「環境システム委員会は、「環境システム体系化・アウトリーチ小委員会」を新たに設置しました。

この委員会では、従来の環境システム研究を

レビューし、体系化を図るとともに、社会に対してその活動成果を具体的な提言などを通じて行う活動、大学教育における環境システム研究の出版活動、民間の活動との連携をすすめています。現在進行中の活動は環境システム学の体系化とそれに関する出版、国土形成計画に対する環境システムの新たな見地からの検討です。環境

政策に関する長期ビジョンに対しても検討を企画中です。

アウトリーチに必要なのはフィードバックです。フィードバックなくして良いアウトリーチはありませんし、フィードバックなしでは継続もできません。ぜひフィードバックをいただけるよう、お願いいたします。

## 土木学会地球環境委員会の活動について

土木学会地球環境委員会

委員長 北田 敏廣

(代 副幹事長 藤原 健史)

土木学会の地球環境委員会は、地球環境問題の解決に貢献する施策と具体的方法を研究・評価し、内外にその成果に基づく提言を行うことを目的としている。組織上は、土木学会に常置委員会が多数ある中で地球環境問題を横断的に扱う窓口として位置づけ、それらの委員会と密接な連携を保ちながら活動することになっている。具体的な業務として、

- 1.地球環境問題に係わる土木学会全体としての活動方針の立案。
- 2.地球環境問題に係わる広範な情報の収集と学会員への提供。
- 3.地球環境問題の解決に貢献する具体的方法に関する研究の実施。なお、特定課題について他の常置委員会へ研究要請を行えるものとする。
- 4.地球環境問題に係わる研究発表の場の提供。
- 5.地球環境問題の解決に貢献する施策に関する提言。

がある。委員会は、委員(20名以内、うち委員長1名、副委員長1名)および幹事(若干名、うち幹事長と副幹事長、各1名)をもって構成

されている。委員会には地球環境シンポジウム実行小委員会、表彰小委員会、Journal of Global Environment Engineering (JGEE)編集小委員会の常設小委員会を置き、また、時宜にあった研究テーマごとに研究小委員会を置いている。以下において地球環境委員会の最近までの活動について説明する。

### 地球環境委員会の活動

#### (1)委員会活動の成果総括

##### 活動の経緯

土木建設事業の多くは直接的かつ大規模に環境に働きかける性格を持っている。「美しい国土」をつくり、「安全で安心できる生活」「豊かな生活」を支える基盤の整備を図ることはもとより、「地球環境問題」に対して、土木界・土木工学は何をすべきか。土木技術者として、どのような責務を負い、具体的にどのような行動を起こすべきか。本委員会の創設(1992)以来、われわれはこのような問題に継続的に取り組み、数々の事業を行ってきた。



京都において気候変動枠組み条約締結国会議（COP3）が開催されて以来、その実行面で国際的にも課題が山積しており、土木界・土木工学の果たすべき役割はますます多く、かつ重要になっている。地球環境委員会では、1994年に『地球環境行動計画（アジェンダ21/土木学会）』の策定に主体的に関わり、これを契機として地球環境問題への取り組みを重点的に推進してきた。土木界の種々の場においても、環境憲章や環境行動計画の策定、環境管理の国際規格（ISO14001）の認証取得、毎年の環境報告書の公表活動などの諸活動への取り組みが始められるようになったことは、この10数年間の大きな変化であると考えられる。

このような地球環境委員会の活動の基本は、前述の『地球環境行動計画（アジェンダ21/土木学会）』に定められている通り、以下の「持続的な開発」に向けた「土木学会が取り組むべき8つの課題」の実現に貢献することであると認識する。

地球環境の改善に貢献する土木工学の形成

人類と生物の共存を可能にする新しい土木工学の展開

温暖化・気候変動の影響構造の解析と対応技術・システムの開発

資源循環型国土・都市づくりのための技術・システムの開発

酸性雨・海洋汚染等の種々の地球環境問題の解決に貢献する技術の開発、土木工学の体系化

国際的な土木建設事業実施の指針の整備と技術の発展

発展途上国の土木工学の発展と人材育成への支援

発展途上国に対する関連する技術協力、技術支援

### 調査研究活動の成果

以上の方針のもとで、これまでに本委員会が重点的に取り組んできた活動の概要を述べる。（詳しくは巻末資料を参照されたい。）

第一に、京都議定書（COP3）を受けた温暖化防止対策の具体化である。この試みは、土木建設業における環境管理システムや環境負荷評価（LCA）に関する研究小委員会活動（1994-1997）、環境パフォーマンス研究小委員会（1998-1999）、毎年恒例の地球環境シンポジウムにおける優秀論文や優秀パネル展示に対する地球環境委員長による表彰制度創設（1999）、気候変動に伴う共同実施・CDM（Clean Development Mechanism）に関する研究小委員会活動（2001-2002）などとして、具体的に実施してきた。

第二に、地球環境問題の解決に向けた土木界全体としての中長期的な取り組み体制の構築である。このために、土木学会内の常置委員会、産官学との連携、さらには土木教育やアジア諸国の土木界との連携も視野に入れながら、本委員会の取り組みを土木界・土木学界全体に広げる努力を行ってきた。この試みは、『土木学会環境賞』創設の共同提案と実現（1999）、土木界に広く視野を設定した環境管理・環境負荷評価（LCA）システムの情報交換会や出版（2000）、委員長候補者や委員幹事の公募制の導入（2000内規改正）、既存の研究領域を乗り越えた土木森林環境学や土木海岸・海洋環境学に関する研究小委員会活動（1999-2001）、自立・循環型都市の構築等

に関する研究小委員会活動(2001-2002)、都市と森林域の連携による流域経営に関する研究小委員会活動(2003-2004)、さらには英字学会誌 JGEE(Journal of Global Environmental Engineering) の刊行(1994-2003)、アジア諸国の開発と環境変動に関する研究小委員会活動(2003-2004)などとして、具体的に実施してきた。

#### 対外的・社会的貢献

本委員会の歴史は 16 年と浅いこともあって、必ずしも対外的、社会的貢献という面で確たる支柱を確立できているわけではないけれども、代表的なものとしてふたつを挙げたいと思う。

ひとつは、ISO14001 の制定(1996)を受け、『アジェンダ 21 / 土木学会』で掲げられたわが国土木界の環境理念を具体化するための規格化作業である。環境管理システ

ムや環境負荷評価(LCA)と環境パフォーマンスに関わる研究小委員会の活動成果を還元するため、前者では「建設業と環境マネジメントシステム」の刊行(1997)、後者では、ISO の「環境パフォーマンス評価ガイドライン」の翻訳(1997)と「建設業の環境パフォーマンス評価とライフサイクルアセスメント」の刊行(2000)を行い、啓発・普及に努めてきた。

ふたつには、『土木学会環境賞』創設を 5 つの関連常置委員会共同で土木学会に提案し、岡村会長(当時)の強い支持を得て、実現を図ったことである。本賞は、「良好な環境を保全するとともに、より豊かな環境の創造に貢献した事業業績」に授与される。技術賞と並び、土木学会賞の双壁として位置づけられる重要な賞であると考えられる。

## (2)小委員会の活動

### 構成と活動内容

これまでの研究小委員会の構成と活動内容は、次表の通りである。

年次	テーマ・構成	担当 委員長	委託研究・編集出版物等
1994-1996	土木自然学懇談会(外部講師 6名)	青山俊介	竹内事務所委託;「土木自然懇談会報告書」(1997)
1994-1997	土木建設業環境管理システム・環境負荷評価(LCA)に関する研究(産官学)	光家康夫	同上;講習会(1997),「建設業と環境マネジメントシステム」(1997,鹿島出版会発刊)
1997-1999	環境パフォーマンス研究	盛岡 通	同上;「建設業の環境パフォーマンス評価とライフサイクルアセスメント」(2000,鹿島出版会発刊)
1998-1999	土木森林環境学研究	太田幸雄	同上;「森林の国土・環境保全機能に関する研究報告書」(1999)
2000-2001	土木海岸・海洋環境学研究	中辻啓二	同上;「海岸・海洋の国土・環境保全機能に関する研究報告書」(2001)

2000-2002	気候変動に伴う共同実施。 CDMに関する研究	三村信男	同上 ; 「Mitigation and Adaptation Strategies for Global Change (MITI)」から特集号を刊行(2003)
2001-2002	自立・循環型都市の構築と暮らしの環境情報に関する研究	松下 潤	同上 ; 「自立・循環型都市の構築と暮らしの環境情報に関する研究報告書」(2002)
2003-2004	流域経営 - 都市と森林域の連携による森林流域管理システム研究	松下 潤	同上 ; 「土木工学の包括的な役割に関する研究報告書」(2005)
2003-2004	アジア諸国の開発と環境変化に関する研究	柴山知也	
2003-	「地球環境レファレンスブック」小委員会	鈴木克徳	作業中
2004-	沖縄における流域管理と赤土流出抑制システムに関する研究開発	松下 潤	国土交通省の研究助成事業への展開
2005-	生態リスク評価小委員会	米田 稔	実施中
2005-	アジア持続可能都市小委員会	藤原健史	準備中

(3)編集出版物(前掲表参照)

(4)委員会の主催行事

地球環境シンポジウム

本委員会では、1993年から毎年7月に恒例の「地球環境シンポジウム」を開催している。このシンポジウムでは、土木会における地球環境問題に関連する活動や研究や内容を、土木学会会員に紹介し、広く議論を起こすことを意図している。構成としては、研究論文の発表(口

頭もしくはポスターの2区分)とパネル展示(民間企業の技術展示と行政機関や大学、NPO等の活動展示の2区分)から構成する。そのほか、シンポジウムの開催時期や開催地の状況に即応した特別セッションや一般への公開シンポジウムも適宜実施してきた。また、優秀論文や優秀パネル展示には、表彰制度を設けていることは前述の通りである。

(5)他委員会等との関係

土木学会全国大会

土木学会全国大会では、1993年以降から現在までに本委員会主催もしくは他委員会との共催による研究討論会を設けた。ちなみに、1998年以降の研究討論会のテーマは次表の通りである。

年次	テーマ	座長	主催・共催
1998	地球温暖化防止のための土木技術の新展開 - CO2 排出を削減するまち創り・くに創り	太田幸雄	地球環境委員会主催

1999	リスク概念に基づいた環境評価・対策とは - 環境・衛生リスクの評価と対策	森澤眞輔	環境工学委員会, 環境システム委員会との共催
2000	気候変動に係る共同実施活動における土木の役割と可能性	三村信男	地球環境委員会主催
	東南アジアの河川域・都市域における地域開発と環境	中辻啓二	水理委員会との共催
	社会の環境変化の本質を探る	楠田哲也	環境工学委員会, 環境システム委員会との共催
2001	環境技術と国際化への対応	大垣真一郎	同上
2002	地球温暖化に関わる CDM/JI 事業の展開における土木の役割と可能性	三村信男	同上
2004	日本の土木技術のグリーン化はどれだけ進化したか?	松井三郎	同上
2005	京都議定書発効! 今後の温暖化対策はどう進むか	三村信男	地球環境委員会主催

(6)土木学会重点研究課題(地球環境委員会関連)

2004年度に「沖縄・石垣島の赤土流出抑制システムと流域経営に関する研究」が採択された。本研究は引き続き国土交通省の研究助成事業に展開中である。また、2006年度には森林資源のエネルギー循環利用システムと地域建設業の振興方策に関する研究を申請中である。(松下)

(7)土木学会他委員会への協力

土木学会環境工学委員会と協力して、アジアの環境問題学生ツアー(2006.3 タイ・バンコク首都圏の環境問題)に、ツアーコンダクターとして松下が参画。6名の学生が応募。チュラロンコン大学の学生との研究交流を行った。

(8)委員会活動の課題と将来計画

地球環境問題では、様々な技術分野の学際的な連携が必要である。さらには、技術面だけでなく、政治経済、倫理観や価値観、生活スタイル等とも関係することから、取り組みを長期的な視点から継続する必要がある。土木学会の内部では、地球環境問題に関するリエゾン(協同)の委員会としての役割を果たすべく、従来にもまして関連の常置委員会との交流・連携を強化する考えである。また、対外的には、特にアジア諸国における日本の環境技術面のプレゼンスを高めることが重要であると認識し、JGEEの拡充や国連大学等との連携による出版等を行う考えである。

---

## 大学・高専ニュース

### (1) 教育研究組織の改組、計画など

#### 東北学院大学

東北学院大学では、平成 18 年 4 月より「環境建設工学科」と改称いたしました。

(文責 石橋良信)

#### 前橋工科大学

前橋工科大学においても改組が進んでおります。現行の 3 学科から 6 学科に増設になります。私どもが所属している学科も「建設工学科」から「社会環境工学科」になり「環境」を意識した学科名となります。詳細につきましては次回以降にお知らせしたいと思います。

(文責 田中恒夫)

#### 山口大学

本年度より、従来の工学部内横断的な「環境共生工学独立専攻」が、工学部(15名)理学部(10名)医学部(2名)とも連携した「環境共生系専攻」として改組された。

(文責 浮田正夫)

#### 熊本大学

平成 18 年 4 月に重点化がなされ、工学部と理学部に所属する教官の所属が熊本大学大学院自然科学研究科に変更となった。この改組に伴い、環境システム工学科は、社会環境工学科と建築学科に分かれた。

(文責 古川憲治)

### (2) 人事

#### 東京大学

平成 18 年 3 月 1 日付

[昇任]

環境安全研究センター 助教授 中島典之  
(前職：先端科学技術研究センター 講師)

平成 18 年 4 月 1 日付

[退職]

大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター 教授 矢木修身(停年退職)

[昇任]

先端科学技術研究センター 講師 栗栖  
(長谷川)聖(前職：大学院工学系研究科都市工学専攻助手)

[新規採用]

大学院工学系研究科都市工学専攻 助手  
春日郁朗

[兼任]

大学院工学系研究科附属水環境制御研究センター センター長 大垣眞一郎

[兼任解除]

大学院工学系研究科附属水環境制御研究  
センター センター長 古米弘明

[配置換]

大学院工学系研究科附属水環境制御研究  
センター 教授 古米弘明(前職:大学院工  
学系研究科都市工学専攻教授)

(文責 栗栖 太)

金沢大学

[昇任]

教授 池本良子

(文責 池本良子)

豊橋技術科学大学

エコロジー工学系:

平成 18 年 2 月 1 日付

[転出]

群馬大学工学部へ教授として転出 桂進司  
(前職:助教授)

平成 18 年 4 月 1 日付

[昇任]

豊橋技術科学大学工学教育国際協力研究セ  
ンター 教授 成瀬一郎(前職:助教授)

(文責 北田敏廣)

岐阜大学

平成 17 年 12 月 31 日付

[転出]

北海道大学へ転出 松下拓(前職:岐阜大学  
工学部社会基盤工学科 助手)

(文責 湯浅 晶)

京都大学

平成 18 年 4 月 1 日現在

[着任]

物質変換・循環論分野 教授 杉山雅人

助教授 藤田健一

大気環境負荷低減論分野 教授 前一廣

助教授 牧泰輔 助手 長谷川功

社会基盤親和技術論分野 助手 吉積巳貴

(文責 藤原健史)

環境保全工学分野 助教授 平井康宏

助手 浅利美鈴

放射能環境動態工学分野 助手 中野朋子

(文責 越後信哉)

宮崎大学

平成 18 年 1 月 1 日付

[昇任]

教授 増田純雄(前職:助教授)

(文責 土手 裕)

熊本大学

[転出]

福岡大学工学部社会デザイン工学科へ助教  
授として転出 渡辺浩(前職:助手)

[新任]

助教授 田中尚人(前職:岐阜大学工学部社  
会基盤工学科講師)

(文責 古川憲治)

東北学院大学

[新任]

宮内啓介、韓連熙の両先生、郷右近勝夫先生  
を他学科より招き、環境系は 6 名の体制にな  
りました。

(文責 石橋良信)

### (3) シンポジウム・講演会など

東京大学

第4回東南アジア水環境国際シンポジウム  
(平成18年12月6日~8日開催予定)

昨年(平成17年)の第3回と同じく、タイ・バンコク郊外のアジア工科大学院(AIT)にて開催する。  
論文発表の公募締切は9月15日、ポスター発表の公募締切は10月31日を予定している。  
詳しくはシンポジウム web サイト

[http://www.env.t.u-tokyo.ac.jp/project/asian\\_water2006/](http://www.env.t.u-tokyo.ac.jp/project/asian_water2006/)  
に掲載される。

(文責 栗栖 太)

豊橋技術科学大学

COE「未来社会の生態恒常性工学」国際シンポジウム開催：平成18年2月5~6日  
ウィーン

(文責 北田敏廣)

京都大学

○“はんなり京都嶋臺(しまだい)塾”

第5回「京の火、世界の火」

平成18年3月28日(火)

講師等：松田知成(地球環境学堂 助教授)、  
森川順行(由岐神社宮司)、高橋孝三(俳誌  
「きりん」同人)

○主催・共催の国際会議

・地球環境学堂アジア・プラットフォーム・  
ワークショップ「アジアの人間安全保障に向  
けた環境マネジメントと地域防災に関する教  
育・研究の国際連携」

平成18年3月13~15日

ベトナム・フエ、フエ農科大学

・国際シンポジウム「美しき 味わい 健康 医  
食同源の哲学」

平成18年3月5~6日 京都大学

(文責 藤原健史)

○“第28回京都大学環境衛生工学研究会シ  
ンポジウム”

平成18年7月18~19日

京都大学百周年記念館 国際交流ホール

<http://www.env.kyoto-u.ac.jp/kyoeiken/>

(文責 越後信哉)

(詳細は後記[(6)その他のニュース]を参  
照してください)

山口大学

ICEM2006 in Yamaguchi が2006.8.28~  
9.1の予定で山口大学工学部にて開催され、  
現在150件以上の論文応募がある。

(文責 浮田正夫)

熊本大学

「微量環境汚染物質の動態評価に関する国際  
シンポジウム」を12月4日に熊本大学工学  
部100周年記念館で開催した。

主催：熊本大学、拠点形成グループ(B)

後援：日本生物工学会、日本水処理生物学会、  
水環境学会九州支部

(文責 古川憲治)

東海大学

シンポジウム名称：3rd International  
Symposium on Contaminated Sediments

主催：American Society for Testing and  
Materials International (ASTM  
International)

会期：2006年5月23日~25日

場所：静岡市 あざれあ会館

お問い合わせ：TEL/FAX:0543-37-0921

e-mail :fukue@scc.u-tokai.ac.jp, または  
kita@scc.u-tokai.ac.jp

<http://soildyn.oc.u-tokai.ac.jp/~iscs2006/>

(文責 福江正治)

#### (4) 国際交流関係の事業など取り組み

豊橋技術科学大学  
エコロジー工学系が中心となった取り組み  
(1) 中国・昆明理工大学と学术交流協定締結(平成18年3月28日)  
(2) 台湾・交通大学と学术交流協定締結(平成18年3月)  
(3) 韓国・水原大学と学术交流協定締結(平成18年3月)

(文責 北田敏廣)

ソウル国立大学、韓国建設技術研究院、  
ジョセフ・フーリエ大学  
日時：2006年4月3日～4日  
場所：京都大学福井謙一記念研究センター  
内容：国内外からの36編の論文発表、ならびに国際ジオシンセティックス学会の後援で実施されている Mercer Lecture(講演者：J.P.Giroud 博士)。

(文責 高岡昌輝)

京都大学  
下記のセミナーを開催しました。  
国際セミナー「Geo-Environmental Engineering 2006(日韓仏第6回協同セミナー)」  
主催：京都大学大学院地球環境学堂、

山口大学  
昨年度 JBIC の委託を受けて、中国内陸部環境社会発展事業の一環として、山口大学と貴州大学の間で環境衛生の改善に係る人材育成事業の FS 調査が行われ、浮田・関根が参加した。

(文責 浮田正夫)

#### (5) 教育・研究上の特別な催し、計画など

山口大学  
例年通り、山口大学地域共同研究開発センター研究協力会の事業の一環として、環境部会の

講演会を年4回実施する予定である。浮田、関根、今井、樋口はその中心メンバーとして運営にあたっている。

(文責 浮田正夫)



## (6) その他のニュース

京都大学

大学院入試情報

### 入試日程

(1) 平成 18 年度 10 月期入学

環境マネジメント専攻博士後期課程

平成 18 年 9 月 1 日(金), 9 月 2 日(土)

(2) 平成 18 年度 10 月期入学

地球環境学専攻博士課程

平成 18 年 9 月 1 日(金), 9 月 2 日(土)

(3) 平成 19 年度 4 月期入学

環境マネジメント専攻修士課程

平成 18 年 8 月 30 日(水), 8 月 31 日(木)

(4) 平成 19 年度 4 月期入学

地球環境学専攻博士課程

平成 18 年 9 月 1 日(金), 9 月 2 日(土)

(文責 藤原健史)

(5) 平成 18 年度 10 月期入学

都市環境工学専攻および都市社会工学専攻

博士後期課程

平成 18 年 8 月 7 日(月), 8 月 8 日(火)

(6) 平成 19 年度 4 月期入学

都市環境工学専攻および都市社会工学専攻

修士課程

平成 18 年 8 月 9 日(水), 8 月 10 日(木)

(志望区分によっては 9 日のみの場合もあります)

都市環境工学専攻, 都市社会工学専攻ならび  
に地球工学科環境工学コースに関する情報

<http://www.uee.kyoto-u.ac.jp>

<http://www.dum.kyoto-u.ac.jp>

<http://www.env.kyoto-u.ac.jp>

をそれぞれご覧下さい。

(文責 越後信哉)

### 入試説明会

<京都会場>

日時: 6 月 24 日(土)

場所: 京大会館 2 階 210 号室

(左京区吉田河原町 15-9)

<東京会場>

日時: 7 月 8 日(土) 午後

場所: 東京ガーデンパレス 2 階 錦の間

(東京都文京区湯島 1-7-5)

詳しくは

<http://www.ges.kyoto-u.ac.jp/recruit/index.html> の「先行情報」をご覧下さい。

地球環境学堂・学舎に関する情報

<http://www.ges.kyoto-u.ac.jp/index.html> をご覧下さい。

(文責 藤原健史)

第 28 回京都大学環境衛生工学研究会

シンポジウムのご案内

1. 日程等について

(1) シンポジウム

1) 期日 2006 年 7 月 18 日(火) ~

7 月 19 日(水)

2) 会場 京都大学百周年時計台記念館

国際交流ホール

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

(吉田キャンパス 時計台 2 階)

Tel. 075-753-2285

3) 参加費 会員 1,000 円, 非会員 2,000 円

(非会員の方は会場での入会が可能です)

4) テーブルセッションについて

ご発表の方々のご研究をより進展させて頂

くため、議論の時間をこれまで以上に確保することを目的に、前回のシンポジウムより従来の発表形式(口頭発表、誌上発表)に加え、テーブルセッションを設けております。

テーブルセッションとは、専用のブースで演者と数人の聴講者が質問時間や形式にとらわれず自由にプロジェクターや講演集、持ち込み資料、持込ノートパソコンなどを用いて発表討論する方式です。

#### 5)特別セッション等について

今回のシンポジウムの特別セッションは「アスベスト問題の現状と今後の課題」(仮題)(コーディネータ:内山巖雄 教授)(18日)を、今年の夏に予定されている、桂キャンパスへの本格移転について、「桂キャンパスへの移転を迎えて」(仮題)(伊藤禎彦 教授)(19日)を予定しております。

また、前回のシンポジウムより、テーマを設定し、大学における研究内容の基礎や、最先端の研究成果についての解説や調査方法・測定方法等に関する講習を行う、チュートリアルセッションを設けております。今回のシンポジウムのチュートリアルセッションは、「環境試料中重金属に対するX線分析最前線」(コーディネータ:武田信生 教授)(19日)を予定しております。なお、この他に国際セッションも予定しております。多くの皆様のご参加をお待ち申し上げます。

本シンポジウムは土木学会継続教育(CPD)プログラムとして認定申請中です。

## (2)総会

- 1)期日 2006年7月18日(火)
- 2)会場 京都大学百周年時計台記念館  
国際交流ホール  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
(吉田キャンパス 時計台 2階)  
Tel. 075-753-2285

## 3)議題

1. 事業報告
2. 会計報告
3. 役員選出
4. 事業計画
5. 会計計画
6. 規約改定
7. その他

## (3)懇親会

- 1)期日 2006年7月18日(火)18:00
- 2)会場 京都大学百周年時計台記念館  
国際交流ホール  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
(吉田キャンパス 時計台 2階)  
Tel. 075-753-2285

(文責 藤原健史)

## 金沢大学

工学部が角間キャンパスに移転しました。

(文責 池本良子)

## 山口大学

山口市を貫流する二級河川である榎野川河口干潟再生事業が、自然再生推進法に基づいて、山口県が進めているが、中西名誉教授を協議会の会長として、浮田、関根もメンバーとして参画し、科学的な研究を通しての貢献のほか、干潟の耕耘作業やアマモの植栽作業などにも学生達とともに参加している。

(文責 浮田正夫)

---

## 会 員 ニ ュ ー ス

山口大学

浮田は昨年末と3月中旬に貴州省と山東省をそれぞれ訪問する機会があり、中国の環境対策の現状を学ぶことができた。メタン発酵便所の普及、農産廃棄物のCOガス化技術、漢

方薬抽出粕を利用したキノコ栽培、コンポストプラントの普及意欲、汚染賦課金の有効利用など、日本よりむしろ先進的な技術や姿勢も見ることができた。

(文責 浮田正夫)

# 特集

博士論文・修士論文・卒業研究等テーマ

博士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
国立				
北海道大学	大気環境保全工学分野	加藤 秀樹	ディーゼル排気微粒子の健康影響リスク評価に関する基礎的研究	村尾 直人
北海道大学	大気環境保全工学分野	山崎 高	森林系木質バイオマスを利用した小規模エネルギー化施設における生成物の特性評価	太田 幸雄
東北大学	工学研究科環境工学系	田 庚昊	高温好気法における高濃度有機廃棄物処理過程のモデル化と最適制御に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	Teepyobon Sangsan	濃縮余剰活性汚泥の嫌気性消化特性および前酸化処理による促進効果に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	大羽 美香	二相循環式水素・メタン発酵プロセスに関する基礎的研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	金 志勲	上水道における同化性有機炭素の生成および除去特性に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	増田 周平	豚舎廃水処理における硝化脱窒中間生成物のモデル化に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	渡辺 正彦	下水道における汚泥のモニタリングによる有害物質の挙動解析	
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	村上 道夫	都市ノンポイント汚染源由来の重金属類の雨水浸透施設における脱吸着	古米 弘明
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	中谷 隼	一般廃棄物処理システムの費用便益分析に基づいた統合的評価の方法論の構築と戦略的環境影響評価への適用可能性	花木 啓祐
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	吉田 綾	日中間の廃棄物リサイクルの実態分析に基づく国際資源循環の持続可能性	花木 啓祐
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	Jie Zhang	The effect of hydrogen as an electron donor on chloroethylene dechlorination in a soil environment and analysis of its microbial community structure (土壤中におけるクロロエチレン類の脱ハロゲン分解に及ぼす水素の影響ならびにその微生物群集構造解析)	矢木 修身
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	Thaveemaitree Yongyod	Adsorption of di-(2-ethylhexyl) phthalate (DEHP) on solids generated in coagulation and flocculation processes in drinking water treatment plants (浄水処理における凝集フロック等へのフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)の吸着に関する研究)	古米 弘明
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	Khalafallan Mona Mohammed Galal	Tradeoff between Improvement Effect of Water and Wastewater Treatment and Their Impact to Human Health, Ecosystem Quality and Resources	花木 啓祐
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	Islam S. M. Atiquil	Gasification of Arsenic from Contaminated Solids by Anaerobic Microorganisms (嫌気性微生物群による汚染土壌からのヒ素ガス化)	福士 謙介
東京大学	新領域創成科学研究科環境学専攻	廣岡 佳弥子	余剰汚泥減量型活性汚泥プロセスにおける無機物の汚泥内への蓄積	味埜 俊
東京大学	新領域創成科学研究科環境学専攻	道中 敦子	活性汚泥中に存在するポリヒドロキシアルカン酸合成遺伝子(phaC)の多様性とその挙動	味埜 俊
東京大学	新領域創成科学研究科環境学専攻	市橋 修	活性汚泥微生物の栄養塩除去関連代謝におけるアレロパシー作用	佐藤 弘泰
東京工業大学		工藤 健太郎	内部境界条件有限要素法による流体運動計算手法の開発	石川 忠晴
東京工業大学	土木工学専攻	Agenson Kenneth	Controlling hazardous chemical compounds by nanofiltration / reverse osmosis membranes in water and wastewater treatment	浦瀬 太郎
金沢大学	自然科学研究科システム創成科学専攻	宮里 直樹	活活性汚泥における糸状性硫黄酸化細菌と硫酸塩還元細菌の変動特性	池本 良子
豊橋技術科学大学	エコロジー工学系	王 文暉	メッシュろ過分離活性汚泥法による難分解性有機汚濁物の除去に関する研究	木曾 祥秋
岐阜大学	工学研究科生産開発システム工学専攻	鄭 恩貞	自然由来有機物質共存下におけるノニルフェノールエトキシレートとエストロゲンの活性炭吸着特性に関する研究	湯浅 晶
京都大学	地球環境学	山田 秀尚	レーザー分光の化学反応研究への応用	
京都大学	地球環境学	吉積 巳貴	政策統合と市民参加によるサステナブル・シティづくり	
京都大学	地球環境学	伊熊 直彦	金属を含まないキラル常磁性液晶の合成と物性に関する研究	
京都大学	地球環境学	瀧本 竜哉	カリックス[4]クラウン誘導体を用いた有機・無機環境汚染物質の吸着除去に関する研究	
京都大学	地球環境学	笹木 義雄	瀬戸内海における半自然海岸および人工海岸に成立した海浜植生の自然性を評価する手法の開発	
京都大学	地球環境学	近藤 久美子	国内製造業における仮想水利用の経済分析	

博士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
京都大学	地球環境学堂	平原 隆史	環境ラベルの政治学：情報的手法を用いた環境政策の評価と政策ネットワーク分析	
京都大学	地球環境学堂	朝野 賢司	エネルギー社会資本の構造転換と再生可能エネルギー政策	
京都大学	地球環境学舎地球環境学専攻	李 雁	Mechanism of LNAPL migration in conjunction with groundwater fluctuation	嘉門 雅史
京都大学	地球環境学舎地球環境学専攻	李 海勲	Development of triple liner system for waste containment facilities	嘉門 雅史
京都大学	環境工学コース	ビョンソン ソングラト	タイ ボン川の流域管理のための水量・水質分析に関わる基礎的研究	
京都大学	環境工学コース	佐藤 主輔	流域圏を対象としたダイオキシン類の蓄積量と起源および流出挙動の推定	
京都大学	環境工学コース	金 孝相	下水処理水のオゾンおよびオゾン/過酸化水素処理における副生成物の挙動と制御に関する研究	
京都大学	環境工学コース	水野 忠雄	有機物除去を目的としたオゾン単独処理およびオゾン/過酸化水素処理の適用性と設計操作因子に関する研究	
京都大学	環境工学コース	サテウイ ウィンシニ-	汚泥発生抑制・リン回収型下水処理技術の開発	
京都大学	環境工学コース	干 智勲	16SrDNAに基づく嫌気性発酵槽の微生物群集解析およびモニタリングに関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	李 映娥	韓国都市における街路型市場の特性と持続可能性に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	山本 茂	計画的都市街地の成熟過程における住環境マネジメントに関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	呂 煜鉉	環境デザインを支援するためのリアルタイムシミュレーションシステムの構築と評価	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	羽原 宏美	屋外条件や自然通風利用を考慮した住宅の空調エネルギー消費予測手法の構築	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	山口 容平	都市レベルのエネルギーマネジメントに基づく民生業務部門の二酸化炭素排出量削減シナリオの評価	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	Zheng Yi	暖房時を対象とするユーザー指向の住宅用エアコン評価手法に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	井上 大介	遺伝子組換え微生物の環境利用に伴う外来性プラスミドの接合伝達挙動に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	Ruttapol Lertsirisopon	Biotic and Abiotic Degradability of Phthalic Acid Esters in Aquatic Environment (水環境中におけるフタル酸エステル類の生物学的および非生物的分解性)	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	瀧 寛則	新規 o - キシレン分解菌の単離と揮発性芳香族炭化水素汚染土壌浄化への活用	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	Pham Manh Hoai	Determination and Toxicity of the Degradation Products of Nonylphenol Polyethoxylates (ノニルフェノールポリエトキシレート)の分解生成物の分析と毒性)	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	丹治 三則	自然共生型の流域圏・都市再生を目的としたシナリオ誘導型の施策立案および評価システムの開発に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	石川 聡子	住民・市民組織による環境保全・環境教育活動の分析を通じた地域における環境教育評価システムに関する研究	
山口大学	理工学研究科環境共生工学専攻	Prapaipid Chairattananokor	Decolorization of Wastewater by Thermotolerant Fungi (耐熱性細菌による廃液の脱色に関する研究)	浮田・今井
九州大学	都市環境システム工学専攻	濱田 康治	高度下水処理における脱窒脱リン菌の有効利用に関する研究	楠田
九州大学	都市環境システム工学専攻	堤 敦	表流水ー地下水系水循環機構の予測モデルの開発と適用ー九州大学新キャンパス建設地を対象としてー	神野
九州大学	都市環境システム工学専攻	熊谷 博史	博多湾における底生生物の生活環を考慮した生態系モデル及び生物生息適正地評価手法の開発	楠田
九州大学	都市環境システム工学専攻	中嶋 雅孝	閉鎖性海域における植物プランクトンの増殖特性と栄養塩管理に関する基礎的研究	楠田
九州大学	都市環境システム工学専攻	Lnana Saria	EVALUATING THE EFFECT OF MIXED HUMUS AND TOPSOIL LAYERS FOR REDUCING ACID MINE DRAINAGE IN COAL IN MINE WASTE DUMPED SITES	島岡
九州大学	都市環境システム工学専攻	李 政準	BEHAVIOR OF HUMIC SUBSTANCES IN LANDFILLS MAINLY DISPOSED WITH MUNICIPAL SOLID WASTE INCINERATION RESIDUES	島岡
九州大学	海洋システム工学専攻	齋田 倫範	現地観測に基づく北部有明海の流れ構造と海水交換特性に関する研究	小松
九州大学	建設システム工学専攻	Prem Bahadur Thapa	GIS-based Quantitative Hazard Modelling of Landslide and Debris Flow in the Mountainous Terrain of Central Nepal	江崎

博士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	Pham Khac Lieu	Nitrogen removal from landfill leachate using single-stage process combining anammox and partial nitritation (Anammoxと部分亜硝酸化を組み合わせた単一槽による埋立地浸出水の窒素除去)	古川憲治
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	Doan Thu Ha	Biological nitrogen treatment of ammonium-contaminated Hanoi groundwater using swim-bed technology (アンモニア汚染されたハノイ地下水の揺動床技術を用いた生物学的窒素除去)	古川憲治
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	今城 麗	無酸素アンモニア酸化 (Anammox) 微生物を用いた高負荷型窒素除去システムの開発 (Development of high loading nitrogen removal system using Anammox microorganisms)	古川憲治

修士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
国立				
北海道大学	水環境保全工学分野	石下 敦子	インドネシア・中央カリマンタン、熱帯泥炭域の土地利用に対応する水環境の変化	
北海道大学	水環境保全工学分野	徳武 康一	サロベツ湿原における植生と水環境	
北海道大学	水環境保全工学分野	脇 総一郎	倶多楽湖における栄養塩の動態と水環境	
北海道大学	水環境保全工学分野	渡辺 楓	浅い湖沼におけるヒ素化合物の挙動	
北海道大学	水環境保全工学分野	平島 邦人	森林地域における金属成分の動態	
北海道大学	大気環境保全工学分野	小林 大記	航空機を用いた北極圏大気エアロゾルの光学特性観測	
北海道大学	大気環境保全工学分野	渋谷 未来	大気エアロゾルの近紫外および可視領域における光学特性	
北海道大学	大気環境保全工学分野	原 弘之	PMF(Positive Matrix Factorization)による分類と後退流跡線を用いた日本の降水化学データの解析	
北海道大学	大気環境保全工学分野	松島 健将	人工雲実験施設を用いたエアロゾルおよび上昇風速が雲粒数濃度に与える影響の評価	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	伊藤 拓生	最終処分場等の修復・再生に向けた廃棄物の前処理とバイオガス化処理の検討	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	小笠原 陽子	北海道における食品廃棄物の発生特性とメタン発酵のプロセス化に向けての検討	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	河原 麻里	土壌還元許容量およびコストに配慮した乳牛ふん尿の適正な地域循環システムの検討	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	木越 雅美	地域で発生する有機系廃棄物の混合によるバイオガス発生特性と消化液処理の実験的検討	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	久保島 賢	Pseudallescheria boydiiによる2,3,7,8-TCDD分解の動力学的解析	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	佐藤 康行	不法投棄現場の嫌気性バイオレメディエーションのためのモデル化の検討	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	西上 耕平	大都市部における生ごみ資源化システムの検討 - バイオガス化を選択した場合のシナリオ分析 -	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	福地 晴男	札幌市ごみ減量のための小単位ごみ収集量把握方法と情報提供方法の検討	
北海道大学	廃棄物管理工学分野	松尾 晃治	廃棄物最終処分場等のガスモニタリングへのオープンパス型計測器の適用可能性の検討	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	富川 博貴	金属回収のための溶融炉運転条件による重金属揮発挙動に関する研究	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	中島 大補	廃棄物由来炭化物の灰分存在形態と除去特性に関する研究	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	中村 信幸	廃棄物最終処分場内の長期的挙動予測プログラムの開発	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	濱田 雄平	産業廃棄物適正処理のための物質収支モデルの作成	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	藤本 有華	廃棄物処理施設に対する住民意識構造のヒアリング調査に基づく分析	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	町田 高穂	廃棄物燃料貯留時の吸湿・吸着熱による自然発火特性の検討	
北海道大学	環境管理計画工学分野	桑原 健吾	標高依存性を考慮した降水量空間分布の推定	
北海道大学	環境管理計画工学分野	福原 那津子	阪神間における私鉄沿線集客施設の土地利用転換について	
北海道大学	環境管理計画工学分野	八巻 幸恵	北海道における道外資本によるリゾート再生について	
北海道大学	環境人間工学分野	伊藤 智徳	自然放射性物質を中心とする多元室内空気質の挙動の解析と環境影響評価に関する研究	
北海道大学	環境人間工学分野	馬場 裕康	温熱生理心理予測システムの高制度化に関する研究	
北海道大学	環境人間工学分野	平賀 夕佳	北日本における地中熱利用路盤融雪システムの環境負荷低減効果の予測	
北海道大学	環境人間工学分野	福村 文	湿度併存下における稚内珪質頁岩の室内空気汚染物質に対する吸脱着特性	
北海道大学	環境システム工学分野	塩見 和哉	建築・都市における水素エネルギーシステムの導入可能性に関する研究	
北海道大学	環境システム工学分野	鶴田 晶子	建築・都市の環境工学的診断への研究	
北海道大学	環境システム工学分野	長沼 隆之	積雪寒冷都市における雪氷冷熱エネルギー利用の有効利用策および地域連携に関する研究	
北海道大学	水環境施設工学分野	桔梗 雄介	洗濯排水の直接膜ろ過の可能性に関する検討	
北海道大学	水環境施設工学分野	竹中 美佳子	哺乳類由来細胞を用いた下水処理系試料の影響評価	
北海道大学	水環境施設工学分野	福田 美意	秩父実証実験におけるバイオトイレの性能評価	
北海道大学	水環境施設工学分野	山縣 一平	し尿のコンポスト化過程におけるエストロゲンとその抱合体の挙動	
北海道大学	水質変換工学分野	島田 隆右	仕切板挿入型MBRによる都市下水高度処理に関する研究	
北海道大学	水質変換工学分野	小笠原 雄二	超高速型ANAMMOXリアクターの構築及び生物膜群集構造解析	
北海道大学	水質変換工学分野	吉口 和美	嫌気的酸生成および酸分解反応に関与する微生物群集構造と機能解析	
北海道大学	環境リスク工学分野	小口 祥史	凝集・精密ろ過を前処理としたナノろ過膜のファウリング試験	
北海道大学	環境リスク工学分野	草野 真一	ヒ素の凝集処理における攪拌強度及び攪拌時間の影響	
北海道大学	環境リスク工学分野	栗原 沙織	超微粉化活性炭によるジェオスミンの吸着除去	
北海道大学	環境リスク工学分野	南 岳宏	塩素による有機リン系農薬のオキソソニル体生成と活性炭からの脱着	



修士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
北海道大学	環境リスク工学分野	梁瀬 達也	陰膳方式によるBangladeshヒ素汚染地域住民のヒ素摂取量の推定	
東北大学	工学研究科環境工学系	安納 幸子	高濃度乳牛ふん尿の高温メタン発酵に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	北條 俊昌	初沈汚泥の二相式水素・メタン発酵に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	倭 常郎	メタン発酵脱水液の処理に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	佐々木 陽	沿岸域における溶存有機鉄と水酸化鉄の分離手法の確立	
東北大学	工学研究科環境工学系	鈴木 孝佳	ファージディスプレイを用いた藻類由来の凝集阻害誘因タンパク質の同定	
東北大学	工学研究科環境工学系	小船井 千恵	低栄養塩濃度の環境水を対象とした植栽浄化水路の構築に関する研究	
東北大学	工学研究科環境工学系	幸福 智	蒲生干潟における堆積物輸送現象の解析	
東北大学	工学研究科環境工学系	藤林 恵	マルタニシの生存戦略が浮遊藻類現存量に与える影響	
岩手大学	建設環境工学科	小林 拓也	中小河川における粒子状有機物質が水生昆虫相に与える影響	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	後藤 宏幸	下水消化汚泥に含まれる有機結合態重金属類の溶出特性に関する研究	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	高橋 真司	皮膜状二酸化チタン光触媒を用いた淡水性藻類の増殖抑制に関する研究	海田・伊藤
新潟大学	自然科学研究科環境共生科学専攻	阿部 玲子	稲と水田土壌におけるビスフェノールAについて	高橋 敬雄
新潟大学	自然科学研究科環境共生科学専攻	安齋 祥子	カンボジア地方部における飲料水質の改善について-緩速濾過技術の移転を図る-	高橋 敬雄
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	磯野 名朋子	土壌由来ベンゼン嫌気分解微生物系の確立とその群集構造解析	矢木・栗栖
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	Pornpen Jittiwuttinon	植物を用いたコメットアッセイによる大気環境のバイオモニタリング	山本・福土
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	磯崎 雄一	自由イオン態に着目した存在形態分析法による都市下水由来亜鉛の挙動の分析	古米・中島
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	大吉 雄人	メタン酸化細菌Methylocystis sp. M によるジクロロエチレン類の分解動力学及び分解生産物に関する研究	矢木・栗栖
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	小西 幸雄	模擬太陽光照射による病原指標微生物の不活化に対する塩分濃度の影響	大垣・滝沢・片山
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	斉藤 夏恵	底泥中PAHのbioaccessibility評価手法の検討と首都圏沿岸域への適用	古米・中島
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	坂本 頼子	活性汚泥中のアンモニア酸化細菌群に対する亜硝酸性窒素濃度の影響評価	矢木・栗栖
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	濱 理貴	植物中のGSTs (glutathione S-transferase)による大気質モニタリング手法の検討	花木 啓祐
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	吉田 太郎	ポリアミドナノ膜を用いた排水処理における有機酸の除去および回収に関する研究	山本・福土
東京大学	工学系研究科都市工学専攻	Heng Chong Kwang	管路腐食モデルを用いた水道管の更新計画	大垣・滝沢・片山
東京大学	新領域創成科学研究科環境学専攻	宇田 直樹	実処理場に存在するポリリン酸蓄積細菌のFISH法による群集解析および定量評価	味埜・佐藤・小貫
東京大学	新領域創成科学研究科環境学専攻	押木 守	活性汚泥中のPHA蓄積細菌群集の分子生物学的手法による解析	味埜・佐藤・小貫
東京大学	新領域創成科学研究科環境学専攻	田中 秀治	実験室規模亜硝酸型硝化リアクターの構築と硝化細菌群集構造解析	味埜・佐藤・小貫
東京工業大学	理工学研究科土木工学専攻	岩佐 知洋	都市域での水環境への重金属面源負荷についての考察	浦瀬 太郎
東京工業大学	理工学研究科土木工学専攻	香川 千絵	浄水プロセスでの粒状活性炭による医薬品の除去特性	浦瀬 太郎
東京工業大学	理工学研究科土木工学専攻	Samerjai Panyosaranya	A comparison of VOC emission from landfills between Japan and Thailand	浦瀬 太郎
豊橋技術科学大学	エコロジー工学専攻	笠原 美菜子	有機溶質のNF膜分離に及ぼす分子篩い作用と膜への吸着の影響	木曾 祥秋
豊橋技術科学大学	エコロジー工学専攻	神本 祐樹	パイロット規模のメッシュろ過-回分式活性汚泥法による余剰汚泥削減特性に関する研究	木曾 祥秋
豊橋技術科学大学	エコロジー工学専攻	瀬古 泰功	メッシュろ過バイオリアクターによる難分解性有機物質の処理特性	木曾 祥秋
豊橋技術科学大学	エコロジー工学専攻	浅岡 聡	オンライン固相抽出法によるリンの超高感度分析法の開発	木曾 祥秋
豊橋技術科学大学	エコロジー工学専攻	山本 寛	ハイドロタルサイトによるヒ素除去における共存成分の影響	木曾 祥秋
豊橋技術科学大学	エコロジー工学専攻	穴太 健介	東三河地域から渥美湾への全窒素負荷量予測に関する研究	北田 敏廣
豊橋技術科学大学	エコロジー工学専攻	呉 戦平	MM5 CMAQ大気シミュレーションシステムのパフォーマンス評価-PEACE C観測データを用いて-	北田 敏廣

修士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
岐阜大学	工学研究科土木工学専攻	佐野川 貴弘	超微粉化活性炭による高速吸着・MF膜複合処理	湯浅 晶
岐阜大学	工学研究科土木工学専攻	成田 健太郎	緻密な農作業・農薬データによる農薬流出モデルの評価	湯浅 晶
京都大学	地球環境学舎環境マネジメント専攻	鳥崎 麻衣	廃棄物処分場跡地の形質変更によって生じるリスクの体系的な評価	嘉門 雅史
京都大学	地球環境学舎環境マネジメント専攻	吉川 雅美	不均質地盤における難水溶性汚染物質の長期挙動	嘉門 雅史
京都大学	工学研究科都市環境工学専攻	嶋田 大士	廃コンクリート再生砕石を地盤材料として利用する際の環境影響評価	嘉門 雅史
京都大学	工学研究科都市環境工学専攻	前田 悠太	管理型海面処分場の遮水性能の評価	嘉門 雅史
京都大学	都市環境工学専攻	井澤 琢磨	エージングによる都市ごみ焼却主灰中鉛の安定化機構の解明	武田 信生
京都大学	都市環境工学専攻	北小路 博之	塩化第二鉄を用いた凝集沈殿汚泥からの薬剤添加によるリンおよび凝集剤回収プロセスに関する研究	武田 信生
京都大学	都市環境工学専攻	櫻井 あや	焼成処理における都市ごみ焼却主灰中鉛およびクロムの挙動解明	武田 信生
京都大学	都市環境工学専攻	船附 淳志	廃棄物熱処理残渣中重金属に対する逐次抽出法の確立	武田 信生
京都大学	都市環境工学専攻	松山 直樹	FentonおよびUdenfriend反応による飛灰中芳香族有機化合物の分解	武田 信生
京都大学	都市環境工学専攻	大竹 健介	ホルムアルデヒド曝露指標としてのヘモグロビン付加体測定に関する研究	内山 巖雄
京都大学	都市環境工学専攻	初田 真幸	水田と湖沼におけるダイオキシン類濃度の将来予測	内山 巖雄
京都大学	都市環境工学専攻	栢谷 清太	自治体におけるバイオテロリズム及び一類感染症対策の現状とその改善に関する研究	内山 巖雄
京都大学	都市環境工学専攻	森尾 謙一	環境騒音に対する受容と慣れ 成田国際空港周辺での質問紙調査	内山 巖雄
京都大学	都市環境工学専攻	是枝 卓成	P0Psのムラサキガイへの濃縮機構と生物モニタリング手法に関する研究	津野 洋
京都大学	都市環境工学専攻	田中 陽三	地理情報を用いた水系感染症リスク評価モデルの開発	津野 洋
京都大学	都市環境工学専攻	前田 雄輝	閉鎖性水域におけるアオコ制御技術に関する研究	津野 洋
京都大学	都市環境工学専攻	松原 秀憲	熱・化学処理による余剰汚泥の可溶化および利用技術の開発	津野 洋
京都大学	都市環境工学専攻	山内 芳准	オゾン処理による下水二次処理水からのエストロゲン性物質の効率的除去に関する研究	津野 洋
京都大学	都市環境工学専攻	磯野 友美	ベンゼン曝露による白血病リスク予測モデルの構築	森澤 真輔
京都大学	都市環境工学専攻	徳永 亮平	河川水質改善への住民努力の効果と簡易水質保全方法の開発	森澤 真輔
京都大学	都市環境工学専攻	戸崎 正裕	リンパ球を用いた重金属塩の免疫毒性評価	森澤 真輔
京都大学	都市環境工学専攻	深見 学史	数理解がんモデルを用いたリスク評価枠組みの構築	森澤 真輔
京都大学	都市環境工学専攻	三浦 格直	内分泌攪乱物質ビスフェノールA及びその代謝物の中枢神経毒性に関する研究	森澤 真輔
京都大学	都市環境工学専攻	小川 潤	一般廃棄物処理システムの最適広域化とその維持戦略	森澤 真輔
京都大学	都市環境工学専攻	朝平 晃章	16SrDNAに基づく高温メタン発酵槽の同定微生物の定量に関する研究	松岡 譲
京都大学	都市環境工学専攻	乾 祐介	世界の流域情報の整備に関する基礎的研究	松岡 譲
京都大学	都市環境工学専攻	藤森 真一郎	全世界の人間活動に伴う炭素、窒素、リンの循環変化に関する基礎的研究	松岡 譲
京都大学	都市環境工学専攻	村上 正晃	計量経済モデルを用いた日本における長期的な二酸化炭素排出量の推計に関する研究	松岡 譲
京都大学	都市環境工学専攻	村瀬 透	経済・社会統計を用いたわが国のマテリアル・ストック量の推計に関する研究	松岡 譲
京都大学	都市環境工学専攻	兼松 正和	流域圏に着目した河川水中ダイオキシン類の動態解析	藤井 滋穂
京都大学	都市環境工学専攻	齊野 玲子	琵琶湖流域中の大気、森林植物及び土壌に含まれるダイオキシン類量の比較検討	藤井 滋穂
京都大学	都市環境工学専攻	西村 想	帰化植物チクゴスズメノヒエの植栽ヨシ群落への侵入に関する影響要因の検討	藤井 滋穂
京都大学	都市環境工学専攻	梅原 秀之	水銀のライフサイクルインベントリ解析と蛍光管循環システムの考察	酒井 伸一
京都大学	都市環境工学専攻	柿沼 公二	バイオ資源・廃棄物等の月別発生量及び温室効果ガスを考慮した最適利用システムに関する研究	酒井 伸一
京都大学	都市環境工学専攻	栗林 佳史	都市ごみ中の塩類とその焼却システムにおける挙動に関する研究	酒井 伸一
京都大学	都市環境工学専攻	二宮 隆	ポリ塩素化ビフェニル(PCBs)とポリ臭素化ジフェニルエーテル(PBDEs)の日本国内排出量の推定と検証	酒井 伸一
京都大学	都市環境工学専攻	木佐 拓郎	油汚染土壌バイオレメディエーションの効率化に関する研究	田中 宏明
京都大学	都市環境工学専攻	長尾 亮治	水環境における医薬品の汚染実態に関する研究	田中 宏明
京都大学	都市環境工学専攻	宮崎 太一郎	合流式の下水処理場における雨天時処理に関する基礎的研究	田中 宏明
京都大学	都市環境工学専攻	田中 健一郎	活性窒素種によって引き起こされる脱アミノ化のDNA損傷とその修復機構に関する研究	松井 三郎
京都大学	都市環境工学専攻	保倉 修一	遺伝的アルゴリズムを用いた作業履歴に基づく都市ごみ収集作業員配置支援手法の開発	松井 三郎
京都大学	都市環境工学専攻	戸田 浩一	LC/MS/MSを用いたヒト臓器中のPAHs起因DNA付加体の網羅的解析	松井 三郎

修士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
京都大学	都市社会工学専攻	桑原 昌紘	Selective bromide removal by ion-exchange processes (イオン交換法による臭化物イオンの選択的除去)	伊藤 禎彦
京都大学	都市社会工学専攻	城 征司	飲用水としての水道水に対する満足感の規定因に関する研究	伊藤 禎彦
京都大学	都市社会工学専攻	宮川 幸雄	琵琶湖・淀川水系における臭化物イオンの発生構造に関する研究	伊藤 禎彦
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	内河 裕美	微生物機能を活用した廃棄物最終処分場の安定化促進に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	岡本 展明	3次元仮想空間とblogの連携による空間設計のためのコミュニケーション支援システムの構築	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	小川 浩司	エコシステムサービスの需要に着目した地域森林資源感情の構築に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	梶本 尚子	流域圏におけるエコシステムサービスに着目した都市-農村連携型の農村再生シナリオに関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	川島 元樹	琵琶湖・淀川流域におけるPRTR対象物質のスクリーニングレベル環境リスク評価	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	木庭 大輔	カラシナとキレート剤を併用したカドミウム汚染土壌浄化技術に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	木村 幸生	亜鉛溶加材を用いたアルミニウム合金/鉄鋼のフラックスレスレーザー接合	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	小松 朗	Co、Ni添加鉛フリーはんだの反応性と接合信頼性	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	酒井 康夫	鉄鋼産業を中心とした高度循環システムの廃棄物産業連関分析	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	坂口 勝俊	植生起源VOCs排出量の光・気温依存性と光化学オキシダント濃度に及ぼす影響	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	坂田 一宏	リアルタイムシミュレーションにおける近景表現手法の開発 - 水、影、緑を対象として -	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	白山 公大	高度技術産業分野における失敗事例の知識化手法の開発 - 失敗のリスクマネジメントへの活用可能性の推定 -	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	菅尾 圭二郎	リアルタイムレンダリングを実現するための環境デザイン検討用コンテンツ生成手法の構築	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	浅井 崇志	都市業務部門における中長期エネルギー消費削減政策評価モデルの開発 - 地区類型評価モデルの開発 -	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	上重 淳	情報機器の変化と住宅勤務がエネルギー消費に与える影響の評価	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	上田 ちひろ		
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	田井 亜矢子	市民参加型まちづくりにおける市民の「気づき」を促すまちあるきの効果の調査分析	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	田尻 幸輝	日射遮蔽等の開口部調整による住宅エネルギー消費削減効果に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	多田 将晴	Biogenic Volatile Organic Compound (BVOC) emissions potential from forests and paddy fields in Japan	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	田中 規敏	空調屋外規周辺の熱環境改善とその効果に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	辻 雄亮	流域圏での漁獲に着目したエコシステムサービスの需要供給バランスの評価に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	堤 幸太	酸化チタンおよび銅粒子分散フォトニックフラクタルの創製と電磁波局在	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	戸部 達也	自然共生型流域圏の将来像提示のための統合モデルの開発	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	中尾 寿孝	都市家庭武門エネルギーエンドユースモデルの検証と気温感度分析への応用	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	野中 美緒	光透過型太陽電池パネルの熱収支特性とその応用に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	長谷川 哲郎	水環境におけるビスフェノールA、ビスフェノールF及びビスフェノールSの生分解性に関する基礎的検討	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	長谷川 裕晃	円石藻類Emiliania huxleyiのココリス生産能を利用した炭素固定及び金属除去・回収に関する基礎的研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	日野 啓太郎	ミリ波制御を図るセラミック製フォトニックフラクタルの創製	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	依谷 知英子	小規模戸建集団開発の戸外空間特性に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	増田 欣之	実建物マネジメント溶空調システムシミュレーションモデルに関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	松本 邦彦	大都市圏周縁部における農地のある市街地景観に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	村重 勝士	遺伝子組換え微生物の土壌中での利用に伴う外来性プラスミドの接合伝達挙動に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	山本 規雄	自然環境中におけるヒ素可動化ポテンシャルの評価	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	Bui Manh Tri	ハノイ市においてドイモイ政策導入以前に供給された集合住宅団地の再生に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	王 朝蘭	中国における固体廃棄物処理の現状分析と施策シフトの効果の推定	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	康 松愛	鉛フリーはんだによるステンレス鋼エロージョン現象の解明	

修士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	任 偉	北京旧城の内城における街路と街区の関係に関する研究	
大阪大学	工学研究科環境工学専攻	酒井 洋彰	導電性接着の信頼性向上に関する実装プロセスの検討	
山口大学	理工学研究科環境共生工学専攻	出口 佳寛	セメント製造工程排ガス中の臭気成分およびその発生メカニズムに関する研究	浮田・樋口
山口大学	理工学研究科環境共生工学専攻	岡部 勝一	環境選好性に基づく河川の魚ののぼりやすさの評価手法の開発	関根
山口大学	理工学研究科環境共生工学専攻	大野 みなみ	嫌気好気循環処理法を用いた糖蜜廃水の生物学的脱色に関する研究	今井
山口大学	理工学研究科環境共生工学専攻	黒澤 真一	窒素・リン除去機能を備えた汚泥減量化プロセスに関する基礎的研究	今井
山口大学	理工学研究科環境共生工学専攻	中川 清也	UASB法における硫酸塩還元菌の制御による安定的なメタン回収に関する基礎的研究	今井
山口大学	理工学研究科環境共生工学専攻	水上 雅昭	閉鎖性水域における底層部への高濃度酸素水導入による水質改善効果に関する研究	今井
九州大学	建設システム工学専攻	浦川 文寛	岩盤不連続面の定量的評価とその力学・透水同時特性に関する実験及び解析的研究	江崎・三谷
九州大学	建設システム工学専攻	秦 将之	難透過性岩石の透水・透気特性の実験的評価に関する研究	江崎・三谷
九州大学	都市環境システム工学専攻	田中 純一	廃棄物層への雨水浸透制御を目的としたキャッピング工法の開発	島岡
九州大学	海洋システム工学専攻	岩谷 理	内湾浅海域を対象とした第三世代波浪推算法WAMの適用性に関する検討	橋本・吉田
九州大学	海洋システム工学専攻	橋本 裕樹	大水深域非越波型護岸の開発および越波飛沫に関する基礎的検討	橋本・吉田
九州大学	建設システム工学専攻	田中 亮介	GISを用いた貯水池上流域における濁質物質発生の評価手法に関する研究	江崎・三谷
九州大学	海洋システム工学専攻	國澤 義則	非対称没水構造物を用いた航路埋没防止技術に関する実験的研究	小松・矢野
九州大学	海洋システム工学専攻	橋本 泰尚	現地観測による島原半島北部沿岸の流動構造に関する研究	小松・矢野
九州大学	海洋システム工学専攻	田井 明	有明海・八代海における潮汐・潮流の数値実験～基本的な潮汐・潮流場と諫早湾潮受け堤防の影響評価～	小松・矢野
九州大学	都市環境システム工学専攻	石崎 俊夫	アジア・メガシティの大規模最終処分場を対象とした廃棄物安定化モニタリング手法の開発	島岡
九州大学	建設システム工学専攻	藤原 裕司	自律分散型GISの構築と適用	江崎・三谷
九州大学	都市環境システム工学専攻	青木 俊和	新キャンパス周辺地域における開発に伴う水循環機構への影響予測モデルの開発	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	伊豫岡 宏樹	北川感潮域に生息するカワスナガニの保全に関する基礎的研究	楠田・久場
九州大学	都市環境システム工学専攻	岡峰 奈津美	有機スズを含有する浚渫海底汚泥の水処理システムの最適化	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	柏原 宏輔	沿岸域での潮汐作用による堆積物 直上水間の輸送現象に関する研究	楠田・久場
九州大学	建設システム工学専攻	川内 一徳	筑後・佐賀平野における地下水収支時空分布解析	江崎・三谷
九州大学	都市環境システム工学専攻	清武 厚子	自己組織化マップを利用した水循環系の健全性の評価	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	里村 大樹	種々の気候変動指標が福岡の降水量および気温に与える影響評価	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	柴田 勝史	渭河流域における水循環過程の解明と持続可能な水資源管理のための検討	楠田・久場
九州大学	都市環境システム工学専攻	永松 由有	瑞梅寺川の水量・水質と今津湾へ流入する汚濁物質量の推定	楠田・久場
九州大学	都市環境システム工学専攻	原口 崇	埋立焼却残渣の炭酸化に伴う鉛の不溶化に関する研究	島岡
九州大学	都市環境システム工学専攻	肘井 史朗	高度下水処理における脱窒性脱リン細菌の単離の試みと微生物群集構造解析	楠田・久場
九州大学	都市環境システム工学専攻	南 健太	雨水貯留浸透施設の計画・評価手法 - 九州大学新キャンパス建設地を対象として -	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	赤木 啓悟	有機質土壌中における海水の酸化還元反応および沈殿過程を考慮した輸送モデルの開発	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	井芹 慶彦	気候変動指標と海面温度データを入力値とするニューラルネットワークを用いた福岡市月降水量予測モデルの構築	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	Eljamal Osama	Denitrification of Secondary Wastewater Using Sawdust	神野・広城
九州大学	都市環境システム工学専攻	Dibya Raj Koirala	Arsenic Analysis of Spring Water at Byodoji area, Munakata City and the Numerical Simulation Mode	神野・広城
佐賀大学	工学系研究科都市工学専攻	水田 勝也	有明海湾奥西部水域での長期モニタリングを通じた水環境特性に関する研究	荒木・山西
佐賀大学	工学系研究科都市工学専攻	養父 芳博	有明海湾奥干潟域における底質特性と底棲生物の生息環境に関する研究	荒木・山西
宮崎大学	土木環境工学専攻	上利 真広	泡沫分離プロセスを導入した連続式油濁排水処理システムの処理能力に関する研究	鈴木 祥広
宮崎大学	土木環境工学専攻	齋藤 誠	家畜ふん焼却灰からのリン溶出方法に関する研究	土手 裕
宮崎大学	土木環境工学専攻	竹嶋 剛	クルマエビの飼育と種苗生産を目的とした閉鎖循環式システムの開発に関する研究	鈴木 祥広

修士論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
宮崎大学	土木環境工学専攻	中村 孝洋	都市河川・河口域における17-エストロジオールの実態調査	鈴木 祥広
宮崎大学	土木環境工学専攻	花ヶ崎 宣昌	泡沫分離法による漁港海水からの細菌除去に関する基礎的研究	鈴木 祥広
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	宅和 正治	ポリエステル製不織布を充填した上向流カラムリアクタによるAnammox汚泥の大量培養	
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	波戸崎 律子	Anammoxと部分亜硝酸化を活用する単一槽窒素除去(SNAP)法の立上げと処理の安定性	古川 憲治
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	中尾 雅治	建設系焼却灰を用いたポーラスコンクリートによる水質浄化特性	古川 憲治
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	川島 裕貴	有明海における水質特性と微生物変動	古川 憲治
熊本大学	自然科学研究科社会環境工学専攻	矢裂 大輔	揺動床による高効率排水処理の特性解明	古川 憲治
<b>公立</b>				
前橋工科大学	建設工学科専攻	縄田 孝彦	森林土壌におけるCO <sub>2</sub> ガス濃度の時間的・空間的変動特性	土屋 十囿
前橋工科大学	建設工学科専攻	大野 渉	地方都市におけるバス交通の評価と利用促進策に関する研究	湯沢 昭
北九州市立大学	国際環境工学研究科環境工学専攻	新谷 亮介	建設混合廃棄物の再資源化の可能性：使用済み衛生陶器の発生量将来予測と環境経済評価	松本 亨
<b>私立</b>				
千葉工業大学	生命環境科学科	田中 崇大	湖沼の成因別特性が湖沼水質に及ぶ影響	瀧 和夫

卒業論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
国立				
北海道大学	環境人間工学分野	久保 まり	東アジア地域の都市化が子どもの健康に及ぼす影響・台湾台中市と韓国春川市の調査結果の比較検討を中心として・	
北海道大学	環境人間工学分野	寺島 崇史	鋼管杭融雪槽における融雪能力の促進に関する検討	
北海道大学	環境人間工学分野	中林 沙耶	地中熱源ヒートポンプを核とした熱源複合型暖房システム設計ツールの開発	
北海道大学	環境人間工学分野	西尾 美菜子	人間・設備・温熱環境系の最適化に関する基礎的研究・温湿度の時空間変動と発汗機能解析を中心として・	中
北海道大学	環境人間工学分野	増田 弘樹	札幌市と名古屋市の公共施設における室内空気質の測定調査とその解析	
北海道大学	環境人間工学分野	松本 暁	稚内層珪質頁岩のヒートアイランド抑制建材への適応	
北海道大学	環境システム工学分野	雨宮 智史	暑熱環境評価の為の体温・発汗量予測モデルに関する研究	
北海道大学	環境システム工学分野	伊藤 祐輝	雪氷冷熱利用の地域連携モデルに関する研究	
北海道大学	環境システム工学分野	鈴木 脩平	常温・常圧における水素貯蔵を導入した住宅用エネルギーシステムに関する研究	
北海道大学	環境システム工学分野	田中 慎哉	地中熱利用システムにおける導入適正地の選定および診断事例データベース構築への研究	
北海道大学	環境システム工学分野	堀 秀聡	燃料電池等設備統合最適利用システムの開発と評価	
北海道大学	環境計画学分野	岡本 博敬	時系列解析による有害大気汚染物質の年平均濃度推定精度に関する考察	
北海道大学	環境計画学分野	福田 晋平	札幌市営地下鉄の高架部シェルターが戸外音環境に与える影響	
北海道大学	環境計画学分野	松田 恭幸	札幌における気温の経年変化の特徴	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	大内 佑斗	カラム実験による下水汚泥炭化物からの有機物・重金属溶出特性に関する研究	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	笹岡 邦明	安定化促進工事中廃棄物埋立地の水分流動状態の推定と診断	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	白石 晴久	各種廃棄物燃料の酸化による自然発火性に関する基礎的研究	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	鶴原 寛明	都市ごみ処理におけるマテリアルフロー及びコスト評価に関する研究	
北海道大学	廃棄物処分工学分野	森元 愛和	札幌市における廃プラスチックのマテリアルフロー分析による再資源化の促進の検討	
北海道大学	大気環境保全工学分野	秋本 祐輔	木質バイオマス燃料のエネルギー変換で発生する粒子状物質の評価	
北海道大学	大気環境保全工学分野	浦上 亮太	大気中アルデヒド・NO <sub>2</sub> 濃度の同時測定手法の検討	
北海道大学	大気環境保全工学分野	岡田 匠	PMF(Positive Matrix Factorization)法を用いた札幌市のエアロゾル発生源の解析	
北海道大学	大気環境保全工学分野	小川 洸平	日本地域における大気混濁係数の推移	
北海道大学	大気環境保全工学分野	篠崎 健	エアロゾルの地域分布作成に向けた測定器の精度の評価	
北海道大学	大気環境保全工学分野	堀江 弘泰	人工雲実験施設における発生エアロゾルの評価	
北海道大学	環境リスク工学分野	大島 卓	GISを用いた水質基準の適合性評価のための水道水質の視覚化	
北海道大学	環境リスク工学分野	木村 哲朗	バングラデシュ式炊飯されたコメのヒ素濃度と全ヒ素摂取量に対する寄与	
北海道大学	環境リスク工学分野	土田 佳幸	モデルシミュレーションによる監視農業選定	
北海道大学	環境リスク工学分野	三崎 富生	攪拌条件及び凝集剤種がヒ素の処理性に及ぼす影響	
北海道大学	環境リスク工学分野	村井 謙二	超微粉化活性炭による2-メチルイソボルネオールの吸着除去	
北海道大学	循環計画システム分野	浅岡 幸甚	アンケートによる札幌市の廃棄物系バイオマスを用いた堆肥利用促進策の検討	
北海道大学	循環計画システム分野	池田 洋	不法投棄現場のベンゼン等揮発性有機化合物を対象とした好気性バイオレメディエーションの適用可能性の検討	
北海道大学	循環計画システム分野	小野 貴弘	家畜ふん尿の堆肥化・バイオガス化に伴う臭気および温室効果ガス低減に関する考察	
北海道大学	循環計画システム分野	香坂 絵里	現地調査に基づいた家畜ふん尿による河川・地下水の窒素汚染解析のためのモデル化	
北海道大学	循環計画システム分野	武田 朋子	不法投棄現場における廃棄物の前処理を考慮した撤去計画の検討	
北海道大学	循環計画システム分野	森山 伸介	中小市町村における生ごみ資源化の推進に向けての検討	
北海道大学	水質変換工学分野	島崎 竜平	ヒトDNAチップを用いた発癌性物質評価法確立のための遺伝子発現解析	
北海道大学	水質変換工学分野	坂倉 季彦	豊平川上流部におけるヒ素の上水汚泥による吸着除去	
北海道大学	水質変換工学分野	下川 正貴	細菌由来の溶存性有機物がANAMMOX活性に及ぼす影響	
北海道大学	水質変換工学分野	チェ ボファ	PVDF膜を使用した加圧式および吸引式膜ろ過特性の評価	
北海道大学	水質変換工学分野	成瀬 拓朗	Membrane BioreactorにおけるF/M比及び膜透過水フラックスの影響	
北海道大学	サニテーション工学分野	天野 史郎	尿の電気透析処理に関する実験	
北海道大学	サニテーション工学分野	岩瀬 智典	MBR-NF/RO膜処理を用いた都市下水からの医薬品の除去	

卒業論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
北海道大学	サニテーション工学分野	沖本 賢司	CaがMF/UF膜ろ過の膜ファウリングに及ぼす影響	
北海道大学	サニテーション工学分野	武部 憲和	バイオトイレにおける有機性廃棄物分解熱利用の可能性に関する検討	
北海道大学	サニテーション工学分野	永田 洋之	MBRIによる台所排水処理における窒素・リンの挙動	
北海道大学	サニテーション工学分野	山崎 宏樹	バイオトイレ用担体に関する基礎的検討	
北海道大学	水環境保全工学分野	斎藤 奈緒美	森林河川の水質特性 - 東京大学農学部付属北海道演習林について -	
北海道大学	水環境保全工学分野	平原 匠	釧路湿原久諸呂川流域におけるハンノキの分布と懸濁態リンの流出	
北海道大学	水環境保全工学分野	阿部 泰典	水環境中のカドミウム 生活系発生源とその制御	
北海道大学	水環境保全工学分野	小野 雄基	水環境中の亜鉛 生活系発生源とその制御	
北海道大学	水環境保全工学分野	野乃上 沙織	森林地域における金属成分の動態 ~ 森林への蓄積 ~	
北海道大学	水環境保全工学分野	長谷川 祥樹	森林地域における大気汚染物質の沈着に関する研究	
東北大学	工学部工学研究科	海鋒 充	高温 - 中温二相循環プロセスによる初沈汚泥の嫌気性消化	
東北大学	工学部工学研究科	小地沢 俊宏	前熱処理下水汚泥の高温メタン発酵特性	
東北大学	工学部工学研究科	林 幹大	Anammox法適用のための亜硝酸型硝化法に関する研究	
東北大学	工学部工学研究科	菊池 祐二	ヒゲナガカワトビケラ(Stenopsyche marmorata)の遺伝的多様性に基づく河川環境評価	
東北大学	工学部工学研究科	佐々木 健吉	ウィルス吸着タンパク質の大量合成	
東北大学	工学部工学研究科	須藤 丈	凝集阻害に作用するMicrocystis aeruginosa産生有機物の分離	
東北大学	工学部工学研究科	諸石 吉生	タイ東北部における地域特性に着目した水系感染症のリスク評価	
東北大学	工学部工学研究科	関 智史	未利用海藻バイオマスを原料としたPb( )吸着剤の作製	
東北大学	工学部工学研究科	小林 万里子	エストロゲンの糸状藻類に対する蓄積性の検討	
東北大学	工学部工学研究科	高橋 惇	同化性有機炭素生成能に関する基礎的研究	
東北大学	工学部工学研究科	坪根 史佳	人為的汚濁負荷源のないダム湖におけるアオコ発生要因に関する考察	
東北大学	工学部工学研究科	松尾 智章	海藻アカモク抽出溶液中の赤潮藻類増殖抑制アレロパシー物質の検索	
岩手大学	建設環境工学科	池田 真章	活性汚泥処理プロセスにおけるヒ素種の挙動に関する研究	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	石川 英樹	雪谷川河川改修工事の評価に関する研究	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	エズディアナ アフニ	圧送式下水管路での硫化水素の発生制御のための空気注入法の評価	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	遠田 和弘	湖沼底泥からの金属の溶出に伴うリスク評価に関する基礎的研究	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	菅野 慧	底泥からのリンの溶出に及ぼす鉄還元細菌の影響	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	佐々木 司 鳴海 貴之	皮膜状光触媒による藻類の死滅機構に関する基礎的研究	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	高橋 健太	下水消化汚泥からの重金属類の溶出特性に関する研究	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	照井 啓太	宮守川における粒子状有機物と水生昆虫の挙動に関する研究	海田・伊藤
岩手大学	建設環境工学科	岩淵 信毅	重合核アルミニウムの付着藻類を指標とした河川生態系への影響評価	海田・伊藤
新潟大学	工学部建設学科	佐藤 毅彦	水中の農薬の多成分一斉分析について	高橋 敬雄
新潟大学	工学部建設学科	佐々川 浩太	水田土壤中ダイオキシン類の光分解に関する研究	高橋 敬雄
新潟大学	工学部建設学科	若杉 紀行	発展途上国地方部に適した緩速濾過システムの研究	高橋 敬雄
東京大学	工学部都市工学科	北島 正章	河川及び湖沼水中のコイヘルペスウイルス(KHV)の濃縮法の比較検討	大垣・滝沢・片山
東京大学	工学部都市工学科	武田 智子	フェノイ盆地における地下水中のフッ素汚染と健康影響に関する研究	大垣・滝沢・片山
東京大学	工学部都市工学科	福土 哲雄	東京の地下水水位上昇による地下水水質への影響	大垣・滝沢・片山
東京大学	工学部都市工学科	吉田 拓	地域社会におけるバイオマス資源利用促進戦略の立案 ~ 埼玉県寄居町とその周辺を中心としたケーススタディ ~	花木 啓祐
東京大学	工学部都市工学科	大坊 彩乃	コンポスト型トイレ実証試験における細菌群集構造の把握	花木 啓祐
東京大学	工学部都市工学科	奥野 亜佐子	消費者の視点を考慮した容器包装リサイクル制度のあり方について	山本・福土



卒業論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
東京大学	工学部都市工学科	割田 麻依香	無酸素槽に傾斜板を導入した膜分離活性汚泥法に関する研究	山本・福士
東京大学	工学部都市工学科	藤田 誠	道路塵埃及び道路排水トレンチの充填砂に対する重金属の吸脱着特性	古米・中島
東京大学	工学部都市工学科	渡部 春奈	カイミジンコを用いた底質毒性試験の毒性応答特性の評価と都内運河底泥への適用	古米・中島
東京大学	工学部都市工学科	高橋 仁	水銀還元酵素遺伝子を組み込んだプラスミドの自然環境中の細菌への伝達に関する研究	矢木・栗栖
東京大学	工学部都市工学科	飛野 智宏	Methane monooxygenase遺伝子を対象としたPCRプライマー群によるトリクロロエチレン分解のモニタリングに関する研究	矢木・栗栖
東京大学	工学部都市工学科	村上 敬介	嫌気性ベンゼン分解集積培養微生物群のFISH法による解析	矢木・栗栖
東京大学	工学部都市工学科	上田 章紘	中等教育におけるSustainability教育プログラム導入に関する提案	味埜・佐藤・小貫
東京大学	工学部都市工学科	北坂 真一	ポリリン酸蓄積細菌Microclunatus phosphovoriusを溶菌するバクテリオファージ ( )MP2のゲノム解析	味埜・佐藤・小貫
東京工業大学	工学部土木工学科	奥村 浩幸	廃棄物処分場からの揮発性有機化合物の排出実態と起源の推定	浦瀬 太郎
東京工業大学	工学部土木工学科	金巻 賢二郎	粉末活性炭添加膜分離活性汚泥法による医薬品カルバマゼピンの処理	浦瀬 太郎
金沢大学	工学部土木建設工学科	伊藤 太一	熱伝導逆問題を利用した冬季高速道路路面温度予測法について	関 平和
豊橋技術科学大学	エコロジー工学系	阿部 真以子	メッシュろ過バイオリアクターによる1,4-ジオキサンの除去特性	木曾 祥秋
豊橋技術科学大学	エコロジー工学系	本田 健一	繊維状固相吸着剤を利用したアルキルフェノール類の抽出法	木曾 祥秋
豊橋技術科学大学	エコロジー工学系	池田 健一郎	東三河森林の環境価値評価およびその価値に対する林業の貢献に関する研究	北田 敏廣
豊橋技術科学大学	建設工学系	小山 将太	茶園、果樹園からの栄養塩流出特性に関する研究	井上 隆信
豊橋技術科学大学	建設工学系	本間 彰洋	柑橘園内河川における懸濁物質と流域土壌中のリンの分画による懸濁態リンの流出特性	井上 隆信
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	安藤 由華	膜ろ過抵抗を抑制させるための凝集処理条件に関する検討	湯浅 晶
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	片峯 由裕	固定層活性炭吸着における長良川水中有機物群の除去性の検討	湯浅 晶
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	田中 秀典	河床微生物を植種した固定層活性炭による天然女性ホルモンの除去	湯浅 晶
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	都築 佑太	膜ろ過浄水処理における膜破損の影響の解析	湯浅 晶
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	牧野 真輔	貯水池底泥中における天然女性ホルモンの消長挙動に関する検討	湯浅 晶
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	北川 和樹	カンボジアにおける浄水処理施設の運転・管理状況と処理水質の調査	湯浅 晶
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	森 孝司	急速砂ろ過と緩速砂ろ過における微粒子除去機能の検討	湯浅 晶
岐阜大学	工学部社会基盤工学科	浅井 将道	抗生物質の定量方法と活性炭による吸着除去性の検討	湯浅 晶
京都大学	地球工学科土木工学コース	大矢 好洋	焼却灰埋立海面処分場における生化学的条件と重金属の動態に関する研究	嘉門 雅史
京都大学	地球工学科土木工学コース	坂田 憲治	廃棄物処分場遮水工の性能に及ぼす影響因子の評価	嘉門 雅史
京都大学	地球工学科土木工学コース	高井 敦史	ソイルベントナイト遮水壁の遮水性能に関する実験的研究	嘉門 雅史
京都大学	地球工学科土木工学コース	田邊 雅哉	曝露促進試験による廃コンクリート再生砕石からの六価クロム溶出特性	嘉門 雅史
京都大学	地球工学科環境工学コース	小寺 恵介	水中エンドトキシンの定量と塩素処理による大腸菌からのエンドトキシン生成評価	伊藤 禎彦
京都大学	地球工学科環境工学コース	小林 憲太郎	エンドトキシンの塩素処理による不活性化と培養細胞に対する毒性に関する基礎的研究	伊藤 禎彦
京都大学	地球工学科環境工学コース	笹山 航	ハイドロタルサイト様化合物を用いた臭化物イオン除去における競合イオンの影響に関する研究	伊藤 禎彦
京都大学	地球工学科環境工学コース	徐 育子	浄水処理過程におけるフェノール性化合物の塩素化に伴うハロ酢酸生成機構の推定	伊藤 禎彦
京都大学	地球工学科環境工学コース	谷田 慎也	琵琶湖・淀川水系における臭化物イオン分布に関する研究	伊藤 禎彦
京都大学	地球工学科環境工学コース	武藤 輝生	トリハロメタン類の飲用寄与率推定のための曝露量評価に関する研究	伊藤 禎彦
京都大学	地球工学科環境工学コース	宮島 章	カドミウム及び鉛を含有する家庭製品の循環・廃棄に焦点を当てたサブスタンスフロー解析	酒井 伸一
京都大学	地球工学科環境工学コース	内田 充洋	3-メチルアデニンDNAグリコシラーゼによる内因性DNA損傷 -メチル- -ヒドロキシ-1,N <sup>2</sup> -プロパノ-2'-デオキシグアノシンの修復に関する研究	松井 三郎
京都大学	地球工学科環境工学コース	乙部 史子	バイオアッセイを用いた下水処理排水中における微量汚染物質の探索	松井 三郎
京都大学	地球工学科環境工学コース	木原 圭史	食品中未発見AhRリガンドの探索	松井 三郎
京都大学	地球工学科環境工学コース	松田 俊	C <sub>60</sub> のDNA損傷性及び細胞毒性の研究	松井 三郎



卒業論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
京都大学	地球工学科環境工学コース	足立 進吾	アジア地域におけるマルチスケールでの大気汚染濃度解析に関する研究	松岡 譲
京都大学	地球工学科環境工学コース	我部山 彰則	世界主要国における二酸化炭素排出量に関する計量経済分析	松岡 譲
京都大学	地球工学科環境工学コース	仲座 方伯	家計消費の分析に基づいた廃棄物発生量の推計	松岡 譲
京都大学	地球工学科環境工学コース	池上 麻衣子	塗料に起因する幼児の重金属接触曝露量の推定	森澤 真輔
京都大学	地球工学科環境工学コース	篠本 祐介	代謝物の毒性を考慮したDDTの発がんリスク評価方法の検討	森澤 真輔
京都大学	地球工学科環境工学コース	友松 千晴	二次元電気泳動による鉛化合物曝露指標の探索	森澤 真輔
京都大学	地球工学科環境工学コース	堀内 伸一郎	二次元確率場の相関距離推定における最尤法、制約付き最尤法、ベイズ法の比較	森澤 真輔
京都大学	地球工学科環境工学コース	坂本 昌則	高度下水処理過程におけるエストロゲン性物質の挙動	津野 洋
京都大学	地球工学科環境工学コース	高部 祐剛	シジミを用いた淡水域でのPOPsモニタリング手法の開発	津野 洋
京都大学	地球工学科環境工学コース	萩原 亘	コンポスト化プロセスにおける生ごみの反応特性の把握	津野 洋
京都大学	地球工学科環境工学コース	堀江 匠	生ごみのL-乳酸発酵の運転条件の検討	津野 洋
京都大学	地球工学科環境工学コース	松本 直樹	スポンジ担体投入型活性汚泥法の処理特性に関する研究	津野 洋
京都大学	地球工学科環境工学コース	内田 翔	合流式が併用された下水処理施設での流入水の特性に関する検討	田中 宏明
京都大学	地球工学科環境工学コース	奥田 隆	下水処理過程での溶存態及び懸濁態抗生物質の分析と挙動	田中 宏明
京都大学	地球工学科環境工学コース	重松 賢行	灌漑利用を想定した土壌カラム試験における下水再生水の窒素挙動	田中 宏明
京都大学	地球工学科環境工学コース	濱口 直	水環境中の抗生物質存在下における抗生物質耐性菌の出現に関する基礎的研究	田中 宏明
京都大学	地球工学科環境工学コース	福永 彩	藻類生長阻害試験を用いた人用及び動物用医薬品の毒性評価	田中 宏明
京都大学	地球工学科環境工学コース	岩本 達志	コナラのイソプレン放出能力と炭素収支の推定に関する研究	東野 達
京都大学	地球工学科環境工学コース	阿部 翔太	ヨシ植栽地の植生に及ぼす琵琶湖水位の影響に関する検討	藤井 滋穂
京都大学	地球工学科環境工学コース	野添 宗裕	下水中の有機フッ素化合物PFOS・PFOAの分析方法と処理場における挙動に関する研究	藤井 滋穂
京都大学	地球工学科環境工学コース	東 紗希	低圧逆浸透膜処理におけるファウリング物質特定に向けた基礎的研究	藤井 滋穂
京都大学	地球工学科環境工学コース	三戸部 亨太	東北タイPhong川流域における表流水質と流域特性に関する検討	藤井 滋穂
京都大学	地球工学科環境工学コース	坂井 伸光	酸化チタン曝露による超微小粒子のマウス体内分布に関する研究	藤井 滋穂
京都大学	地球工学科環境工学コース	松本 雅史	バイオテロリズムの対策に関する基礎的考察 日米比較を中心に	藤井 滋穂
京都大学	地球工学科環境工学コース	若山 理花	標準砂へのカドミウムの吸着特性に対する天然有機物の影響	馬場 保典
京都大学	地球工学科環境工学コース	石原 裕希子	吸着剤を用いた消化ガス中シロキサン効率の除去に関する検討	武田 信生
京都大学	地球工学科環境工学コース	北出 真一郎	河川底質中PCBsの汚染分布調査および効率的処理に関する研究	武田 信生
京都大学	地球工学科環境工学コース	堂本 真吾	未知発生源における水銀排出挙動に関する調査	武田 信生
京都大学	地球工学科環境工学コース	橋本 瞳	都市ごみ焼却灰中塩素の低減に関する検討	武田 信生
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	石川 理一登	スマート生産を目指したチタン金属の自由造形と応用に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	一岡 翔太郎	河川改修事業が文化財および社叢林に及ぼす影響の予測評価	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	井手 夏樹	つながる (卒計)	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	稲葉 正毅	河川微生物の化学物質分解ポテンシャルの評価に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	岩井 良真	在宅勤務の増加が民生業務部門のエネルギー消費に与える影響評価	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	于 寧	水生植物ウキクサ根圏における芳香族化合物の分解促進効果に関する基礎的検討	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	宇江 純一	水道資源・施設を有効活用した都市環境改善の推進に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	大亀 稔生	松山城サルベージ計画 (卒計)	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	大久保 崇	淀川流域におけるダイオキシン類の動態解析	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	岡本 真紀	郊外の小規模なまとまりある戸建て住宅地への住要求に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	久原 玲子	高効率地域冷暖房システムの省エネルギー性要因分析	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学	古野間 達	地方小都市における中心市街地活性化を目的とした牽引型のタウンマネジメントの分析調査 滋賀県長浜市を事例として	-
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	笹川 大介	屋上緑化システムの降雨流出調整機能評価	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	篠田 なつき	自己啓発活動と人々の交流を支える施設に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	芝井 彰	船場の参道 (卒計)	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	下川 大輔	Sn-Ag-Cu鉛フリーはんだへのCo, Ni添加によるステンレス鋼製フロー槽の損傷抑制	

卒業論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	下田 潤	環境効率性指標を用いた企業環境戦略分析 ～新パルプ産業・ビール産業を対象として～	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	鈴木 晶	都市平熱化を目的とした大気熱負荷の地域類型化	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	武田 晶子	屋外条件や自然通風利用を考慮した住宅の空調エネルギー消費予測に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	達脇 浩平	スクリーニングレベルリスク評価を目的としたSeveral Box型Multimedia Modelの構築	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	谷口 綾子	家庭用エネルギー最終需要モデルの感度解析を用いたベースラインの決定	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	筒井 裕文	プラスミドの接合伝達に伴う微生物機能改変の可能性	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	寺西 慶多	居住者の意向を踏まえた都市のコンパクト化施策に関する基礎的考察	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	董 燕	中国人にとっての観光都市大阪の魅力に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	栃本 真理乃	学生×団地 (卒計)	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	中嶋 理人	二次粒子生成過程を含んだ浮遊粒子状物質濃度の数値シミュレーション	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	南郷 侑	神戸市街地を対象とした風の道形成による微気象改善効果の評価	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	橋本 早紀	民生部門エネルギー消費への気温影響評価 - 地域特性とヒートアイランド対策による影響 -	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	樋口 澄洋	水蒸気プラズマを用いた炭化物処理における含有金属の影響	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	日比野 貴則	マイクロフットニックフラクタルの創製とテラヘルツ波制御への応用	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	富士 剛志	森林生態系モデルを応用した森林の経済機能の動的評価	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	古川 哲也	抽水植物ヨシ根圏を利用した多環芳香族化合物の分解の促進	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	星子 智	森林簿を利用した近畿圏におけるスギ花粉の飛散シミュレーション	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	増本 藍	森林生態系モデルを応用したGISによる流域圏生物多様性評価	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	松永 弥子	つながる (卒計)	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	宮垣 慶子	1,4-ジオキサン分解菌を活用した汚染の水浄化に関する基礎検討	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	宮崎 智也	垂ヒ酸酸化細菌を利用した水中からのヒ素除去	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	宮地 匡子	天満・町宿 (卒計)	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	宮野 知樹	T-RFLP法を用いた食品廃棄物を処理するメタン発酵槽内の微生物群集解析	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	向仲 範晃	リスク分担型の費用負担に関する社会システムの構築 ～土壌汚染を対象として～	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	森奥 悠人	都市農村交流における二地域居住の可能性に関する研究	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	安木 亮太	近畿圏におけるVOCs発生量の推定とオゾン濃度の数値シミュレーション	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学	若津 宇宙	コミュニティ圏域における環境保全活動を促す手立てに関する基礎的研究 - 福井市のまちづくり事業を対象として -	
大阪大学	工学部地球総合工学科環境工学科目	和田 直樹	中国石炭火力発電設備の更新に関わる技術選択によるGHGs削減効果と経済性評価	
山口大学	理工学研究科環境共生工学	近藤 絵里	水域における溶存性鉄の分布と利用性に関する研究	浮田
山口大学	理工学研究科環境共生工学	鈴木 淳一郎	廃プラスチック処理過程における有害ガス及び臭気発生に関する研究	浮田・樋口
山口大学	理工学研究科環境共生工学	南 充由士	パークによるアンモニア脱臭特性に関する研究	浮田・樋口
山口大学	理工学研究科環境共生工学	曾我部 愛	山口湾河口干潟再生のための干潟泥の起源に関する研究	浮田・関根
山口大学	理工学研究科環境共生工学	尾添 紗由美	アサリ保護放流実験に基づく山口湾のアサリ再生方策に関する研究	関根
山口大学	理工学研究科環境共生工学	吉田 将紀	ホタル水路建設のためのゲンジボタル幼虫とカワニナの生態系モデルの作成	関根
山口大学	理工学研究科環境共生工学	渡邊 枝里子	榎野川堤外地ホタル水路の有効性に関する研究	関根
山口大学	理工学研究科環境共生工学	橋口 麻美	落水音に対するアユの選好性的実験的解析	関根
山口大学	理工学研究科環境共生工学	井篁 俊人	UASB法における硫酸還元菌の活性制御による安定的なメタン回収に関する研究	今井
山口大学	理工学研究科環境共生工学	坂井 研一	閉鎖性水域における貧酸素化した底層部への高濃度酸素水導入の効果に関する研究	今井
山口大学	理工学研究科環境共生工学	向 修平	嫌気好気微生物処理を用いた着色排水の脱色に関する研究	今井
山口大学	理工学研究科環境共生工学	中東 史仁	酵母発酵廃液の水稲に対する液肥としての肥料効果に関する研究	今井
九州大学	工学部・地球環境工学科	石橋 俊将	ジオシンセティックスを用いたごみ埋立地キャッピング層における水分移動に関する研究	島岡
九州大学	工学部・地球環境工学科	川崎 康弘	遮水シートの劣化状況把握を目的とした非破壊試験法の開発に関する研究	島岡
九州大学	工学部・地球環境工学科	下田 誠	垂直荷重の制御方式の違いによる不連続面のせん断・透水同時特性の変化に関する研究	江崎・三谷
九州大学	工学部・地球環境工学科	山下 貴士	難透過性材料の透水特性に及ぼす装置の貯留性の影響の検討	江崎・三谷

卒業論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
九州大学	工学部・地球環境工学科	荒木 健人	内湾波浪推算の精度向上を目的とした海上風推算に関する検討	橋本・吉田
九州大学	工学部・地球環境工学科	石堂 濯	現地観測による飛沫越波の特性について -山口県和久漁港-	橋本・吉田
九州大学	工学部・地球環境工学科	上谷 佳寛	数値計算と実験による大水深域非越波型護岸の越波特性の検討	橋本・吉田
九州大学	工学部・地球環境工学科	沖田 翔吾	BaNKシステムの物質輸送制御効果に関する基礎的研究	小松・矢野
九州大学	工学部・地球環境工学科	尾崎 隼一	貯水池の濁水と上流域の環境との関係に関する研究	江崎・三谷
九州大学	工学部・地球環境工学科	押方 智成	RCM20で予測された九州地方の温暖化の特徴	橋本・吉田
九州大学	工学部・地球環境工学科	加嶋 武志	飛沫越波対策工法の実験的検討（山口県和久漁港）	橋本・吉田
九州大学	工学部・地球環境工学科	亀子 健太	BEM-VOF結合解析法を用いた数値波動水路の適用性について	橋本・吉田
九州大学	工学部・地球環境工学科	真田 将平	筑後川上流日田市内湛水域の水環境に関する現地観測	小松・矢野
九州大学	工学部・地球環境工学科	重田 真一	漂流ブイを用いた島原半島沿岸域の物質輸送に関する現地観測	小松・矢野
九州大学	工学部・地球環境工学科	福澤 賢作	流木による橋梁部の閉塞の防止に関する実験的研究	小松・矢野
九州大学	工学部・地球環境工学科	添田 志門	マイクロ波リモートセンシングによる廃棄物処分場埋立高の推定に関する研究	島岡
九州大学	工学部・地球環境工学科	王 楊	有機物含有量に着目した土壌-海水相互作用による還元環境の形成機構	神野・広城
九州大学	工学部・地球環境工学科	小川 裕樹	カキを利用した有明海生物生息環境改善に関する研究	楠田・久場
九州大学	工学部・地球環境工学科	奥田 文	大山川の維持流量変化が河川環境に与える影響	小松・矢野
九州大学	工学部・地球環境工学科	小畠 健太	夏季の局地雷雲の発生予測を目的とした大気循環モデルの構築	神野・広城
九州大学	工学部・地球環境工学科	齊藤 啓輔	埋立焼却残渣粒子への重金属の吸着機構に関する基礎的研究	島岡
九州大学	工学部・地球環境工学科	佐野 弘典	瑞梅寺川流域における汚濁物質流出特性と流達負荷量	楠田・久場
九州大学	工学部・地球環境工学科	滝川 尚樹	水道事業の効率的な管理・運営に関する一考察	神野・広城
九州大学	工学部・地球環境工学科	田辺 智子	EBB菌の水質浄化機能に関する基礎的実験	小松・矢野
九州大学	工学部・地球環境工学科	土屋 大輔	沿岸域における潮汐作用による堆積物-直上水間の鉛直輸送現象に関する研究	楠田・久場
九州大学	工学部・地球環境工学科	中尾 昭仁	北川感潮域におけるカワスナガニの生態とその保全	楠田・久場
九州大学	工学部・地球環境工学科	秦 裕一	自己組織化マップを用いた水循環系の健全性評価に対する各自治体の取り組み意識	神野・広城
九州大学	工学部・地球環境工学科	濱田 桂子	SOMを用いた梅雨期と関連する大気指標の分類	神野・広城
九州大学	工学部・地球環境工学科	安成 俊宏	焼却灰からの塩素溶脱に及ぼす共存有機物の影響	島岡
九州大学	工学部・地球環境工学科	安村 圭亮	佐賀平野における地下水揚水量時空分布のGIS解析方法の提案	江崎・三谷
九州大学	工学部・地球環境工学科	横溝 理恵	岩石-水相互作用による水質形成機構について	神野・広城
佐賀大学	理工学部都市工学科	寺田 健二	アゲマキガイの生息環境に関する研究	荒木・山西
佐賀大学	理工学部都市工学科	前田 葵	セジメントトラップを用いた現地干潟域における懸濁物の沈降特性に関する研究	荒木・山西
佐賀大学	理工学部都市工学科	松浦 公紀	干潟域における底泥・懸濁物輸送に関する研究	荒木・山西
佐賀大学	理工学部都市工学科	三島 悠一郎	マグネシウム系発泡廃ガラスのリン除去機構に関する研究	荒木・山西
宮崎大学	土木環境工学科	福永 将也	高濃度オゾンを用いた畜産排水の色度除去に関する研究	増田 純雄
宮崎大学	土木環境工学科	金子 賢太	長期間曝気による養豚廃水処理に関する研究	増田 純雄
宮崎大学	土木環境工学科	坪井 望	焼酎蒸留粕の模擬凝縮液を用いた生物学的脱窒に関する基礎的研究	増田 純雄
宮崎大学	土木環境工学科	甲斐 崇記	網目構造回転翼による都市下水の脱窒に関する研究	増田 純雄
宮崎大学	土木環境工学科	柴田 矩良	焼酎蒸留粕による緑化資材の開発に関する研究	増田 純雄
宮崎大学	土木環境工学科	梶原 徹	埋立層内からの長期的アルカリ溶出について	土手 裕
宮崎大学	土木環境工学科	奈須 弘晃	重金属の長期的溶出挙動に関する研究	土手 裕
宮崎大学	土木環境工学科	藤吉 史	豚ふん尿素堀池汚泥固化物からの窒素・重金属溶出抑制のための固化条件の探索	土手 裕
宮崎大学	土木環境工学科	布 尊仁	豚ふん尿素堀池汚泥固化物の窒素・重金属の長期的な溶出特性に関する研	土手 裕
宮崎大学	土木環境工学科	津波古 敦信	家畜ふん焼却灰からのリン溶出残渣の有効利用に関する研究	土手 裕
宮崎大学	土木環境工学科	内田 千暁	河川・湖沼で形成される泡沫スカムの形成原因物質に関する研究	鈴木 祥広
宮崎大学	土木環境工学科	古川 隼士	海水混合による都市河川水中のフルボ酸鉄の凝集とエストロゲンの動態との関係に関する研究	鈴木 祥広
宮崎大学	土木環境工学科	山下 祐大	水環境の細菌汚染指標である大腸菌と腸球菌の塩分耐性に関する基礎的研究	鈴木 祥広

卒業論文

大学名	学科・専攻名	著者名	題 目	指導教授 あるいは主宰
熊本大学	自然科学研究科	黒木 淳博	SNAP法による埋立地進出水のNH <sub>4</sub> -N除去に関する研究	古川 憲治
熊本大学	自然科学研究科	神田 龍一	硝化処理された地下水の揺動床による脱窒処理	古川 憲治
熊本大学	自然科学研究科	山本 洋充	Anammox汚泥の大量調製プロトコルの確立に関する研	古川 憲治
熊本大学	自然科学研究科	山本 太一	Anammoxプロセスを活用する畜産廃液処理に関する研究	古川 憲治
熊本大学	自然科学研究科	渡辺 佑輔	揺動床による高濃度有機排水処理に関する研究	古川 憲治
公立				
前橋工科大学	工学部建設工学科	石森 久仁子	都市河川における調節池の洪水ピーク流量低減効果	土屋 十園
前橋工科大学	工学部建設工学科	清水 美代	森林小流域における融雪を考慮した長期流出解析	土屋 十園
前橋工科大学	工学部建設工学科	脇村 将太	硫黄・粒状活性炭混合造粒物を用いた脱窒処理	田中 恒夫
前橋工科大学	工学部建設工学科	佐藤 孝志	電解結晶化法による畜産排水の高度・高次処理	田中 恒夫
前橋工科大学	工学部建設工学科	深津 和弘	造園樹木によるCO <sub>2</sub> 固定量の推定	田中 恒夫
前橋工科大学	工学部建設工学科	大淵 敦	群馬県波志江沼における窒素・リン収支	田中 恒夫
北九州市立大学	国際環境工学部環境空間デザイン学 科	三島 知行	省エネ家電の普及に資する流通業者・消費者の意識調査と温室効果ガス削減効果の推計	松本 亨
私立				
千葉工業大学	生命環境科学科	上野 龍 高田 晋平	局所洗掘現象の計算	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	岡田 あゆみ	北印旛沼周辺の湧水調査	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	大嶋 彰敏	印旛沼周辺湧水の主成分分析による解析	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	賀嶋 健二 前田 剛志	バネフィルターによる汚濁湖沼の直接浄化	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	白土 篤志	環境変化に伴う植物プランクトンの表面電位変動の検討	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	鈴木 章洋	水質改善にむけた手賀沼の経時的変化に伴う流況解析	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	関 竜広	増殖過程における植物プランクトン粒子の表面電位変化	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	前田 勇樹	自動分類のためのプランクトン分類による多変量解析	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	森 慎太郎	水質改善に向けた印旛沼の流況・水質解析	瀧 和夫
千葉工業大学	生命環境科学科	竹川 将太郎	野外設置型モデルエコシステムにおける底泥処理効果	瀧・村上
千葉工業大学	生命環境科学科	小沼 達朗	室内培養型モデルエコシステムによる窒素の抑制効果	瀧・村上
千葉工業大学	生命環境科学科	古立 宣久	室内培養型モデルエコシステムによるリンの抑制効果	瀧・村上

---

## 事務局からのお知らせ

### 1) 本年度総会を、6月下旬ころに開催致します。

E-mail または FAX、郵便でご案内致しますので、よろしくお願い致します。

### 2) 役員改選のお知らせ

本年度は役員改選の年です。現在、改選準備中です。ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

### 3) 会費請求について

来年度の会費納入のお願いを送付しております。未納の方は至急お手続き下さい。当会の運営にご協力をお願い致します。

### 4) 入会のご案内

ご入会ご希望の方がおられましたら、事務局までお知らせください。入会申込書を送付させていただきます。また、入会申込書はホームページからもダウンロードできます。

日本環境工学教授協会 事務局

住 所

〒600-8815

京都市下京区中堂寺粟田町 93 京都リサーチパーク 4 号館 3 階 ITEC

(有) セクレタリー・オフィス・サービス内

E-mail : [jaeep-office@s-off.com](mailto:jaeep-office@s-off.com)

: [jaeep-office@sec-off.com](mailto:jaeep-office@sec-off.com)

電話 : 075-323-4511

FAX : 075-323-4512

URL <http://www.s-off.com/member/jaeep/>